

地域連携 学生フォーラム in Osaka 2026

発表概要集



I ♥ 大阪 このまちめっちゃ好きやねん!!

Z世代発信!! 未来の学び みんなで知ってみやん?

主催: 特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

目 次

○発表概要

追手門学院大学 経営学部 村上 喜郁ゼミ	1
大阪府中央卸売市場との連携による食育・「大阪産（もん）」PRと 地域の魅力発信プロジェクト	
大阪観光大学 観光学部 身玉山ゼミ（地域連携実践）	13
阪南市の山中溪地域の観光振興連携	
大阪経済大学 経営学部 古賀ゼミ	29
地域間交流の中で地域担い手づくり～あいはし×ひがしよどがわ～	
大阪国際大学 経営経済学部 経済学科	43
門真団地活性化プロジェクト	
大阪国際大学 経営経済学部 経営学科 スポーツビジネスコース	56
アクティブヘルスプロジェクト	
大阪電気通信大学 建築・デザイン学部 インテリアデザイン実践	67
Create For 小学校PJ	
関西大学 人間健康学部 村川ゼミ①	77
エディブルケア活動	
関西大学 人間健康学部 村川ゼミ②	88
子どもの新しい遊び場	
関西大学 人間健康学部 村川ゼミ③	101
日本語学校の生徒へ日常に近い日本語会話の提供	
近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 地域デザイン研究室 ..	112
古民家宿「ことうみ亭」の中庭空間デザインを通じた地域づくり	
摂南大学開学50周年記念事業「摂南アグロボタニカルプロジェクト」	124
大学オリジナル薬膳メニューの開発	
阪南大学ファッションサークル	135
大学とショッピングモールをつなぐファッションプロジェクト	

※大学名五十音順／当日の発表順ではありません。

各団体の発表

■追手門学院大学 経営学部 村上 喜郁ゼミ

活 動 テー マ	大阪府中央卸売市場との連携による食育・「大阪産（もん）」PRと地域の魅力発信プロジェクト
活 動 場 所	大阪府中央卸売市場、追手門学院大学、大阪府内の食育イベント会場、「大阪・関西万博」関連会場等
連 携 先	大阪府中央卸売市場、各JA
活 動 主 体	追手門学院大学 経営学部 村上 喜郁ゼミ

1. 活動概要

本活動は、大阪府中央卸売市場との連携を通じて、学生が食品の流通や地域農産物の魅力を学び、それを発信する実践型プロジェクトである。卸売市場見学会や学生プレゼンテーションを通じて食品流通の役割を理解し、「SDGs 食育フェスタ」等では、子ども向けに「模擬セリ」や食育企画を実施してきた。また、「大阪産（もん）」のPR活動として、「八尾えだまめ」や「泉州きくな」等の魅力発信にも取り組み、「大阪・関西万博」でのPR活動、学会発表、ラジオ番組での発信など、活動の場を学外へ広げている。現在は新規プロジェクトとして、市場関係者と連携しながら、若手農家や市場関係者に向けたアパレル商品の開発にも取り組んでいる。

2. 年間計画

4月：大阪府中央卸売市場との連携内容を確認し、年間活動の方向性や役割分担を整理する。
5月：大阪府中央卸売市場の見学会を実施し、市場流通の仕組みや市場関係者の役割について理解を深める。
6月：「SDGs 食育フェスタ」等に参加し、子ども向けの「模擬セリ」や食育企画を実施する。
7月：「大阪産（もん）」のPR活動に向けて、対象品目の特徴や販売促進方法を調査・整理する。
8月：学会発表や学生フォーラム等に向けて、これまでの活動内容や成果を資料としてまとめる。
9月：「大阪・関西万博」でのPR活動や学外発信に向けて、発表内容や広報方法を検討する。
10月：学生フォーラム等で活動成果を発表し、他大学の学生や地域関係者との交流を行う。
11月：学園祭や地域イベント等で、「大阪産（もん）」や市場の魅力発信を行う。
12月：1年間の活動内容を整理し、成果や課題をまとめる。あわせて、次年度に向けた後輩への引継ぎ準備を行う。
1月：後輩への引継ぎを進め、活動の進め方、連携先との関わり方、企画運営上の注意点などを共有する。
2月：1年間の活動成果を報告書や発表資料としてまとめ、次年度の活動に向けた改善点を整理する。
3月：次年度の活動計画を検討し、継続的な連携に向けた改善点を整理する。
通年：大阪府中央卸売市場の方々と連携し、食育活動、「大阪産（もん）」PR、学外発信、アパレル開発などを継続して進める。

3. 活動成果

本活動では、単に食品流通について学ぶだけでなく、学んだ内容を地域へ発信する実践的な成果を積み重ねてきた。大阪府中央卸売市場の見学会や学生プレゼンテーションを通じて、市場流通、地産地消、販売促進、食育に関する知識を深めた。それを子ども向けの「模擬セリ」や食育企画として形にした。また、「八尾えだまめ」や「泉州きくな」などの「大阪産（もん）」について、品目の特徴や生産背景、従前の消費者への伝え方を調査し、万博でのPR活動、学会発表、ラジオ番組での発信につなげた。現在は、これまでの学びをさらに発展させ、市場関係者や若手農家の魅力を伝えるアパレル開発にも取り組んでいる。学生自身が調査・企画・発表・広報まで行うことで、地域連携を実践的に学ぶ成果が得られている。

4. 地域からの評価

本活動は、大阪府中央卸売市場の魅力や「大阪産（もん）」の価値を、学生の視点から若い世代や子どもたちに届けている点で地域に貢献している。特に、「SDGs 食育フェスタ」等で実施した模擬セリや食育企画では、参加者が楽しみながら市場流通や食材に関心を持つきっかけをつくることができた。また、万博でのPR活動、学会発表、ラジオ番組での発信を通じて、市場や「大阪産（もん）」の認知向上にも貢献している。さらに、学生が市場見学会やプレゼンテーションを通じて得た知識を外部へ発信することで、市場関係者だけでは届きにくい層へ情報を届ける役割も果たしている。現在進めているアパレル開発も、市場や農業に関わる人々の仕事を身近に感じてもらう新しい広報手段として、地域へのさらなる貢献が期待される。

5. 参考 WEB サイト

追手門学院大学 経営学部 村上 喜郁ゼミ 公式 Facebook
<https://www.facebook.com/profile.php?id=100041402152293>

6. 活動メンバー

経営学部

3 年生

乾 仁乃助、大崎 雄大、道上 瑤平、清田 颯斗、藤木 陸、嶋内 遥大、辻本 世波、
谷原 陸斗、越智 匠海、喜納 颯太、江田菜々美、國松日向葵、河野 千鶴、田中 彩琳、
沖津 良佳、真野 優花

2 年生

高橋 明里、菊地 光璃、白井 絢子、大澤 詩瑛、久貝愛理奈、神戸 七海、對馬 心音、
高島 愛怜、下農 彩水、後藤 美咲、射場 悠愛、竹田 悠太、西川 倅生、橋本 悠馬、
田中 陽太、林永 透、隈元 彬登

7. 担当教員

経営学部 教授 村上 喜郁

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名		追手門学院大学
所属先・職名		経営学部 経営学科 3 年
氏 名		乾 仁乃助
連絡先	電 話	080-5938-0701
	メー ル	24MM098@haruka.otemon.ac.jp

9. 活動の様子



大阪府中央卸売市場との 地域連携による食育 & 「大阪産(もん)」の魅力発信



追手門学院大学 経営学部 村上喜郁ゼミ

大阪産(もん)とは？

②

大阪府内で生産された農林水産物と
それらを使った加工品



出典：「大阪産(もん)データベース」 <https://osaka-mon.org/commodity>

ゼミ・地域連携

3

地域から学ぶ



学生が考える



地域・社会へ
発信する



先輩の論文

4

「大阪産（もん）の地域振興への活用とその課題」
日本フードツーリズム学会誌（2025）第4号

研究対象：



泉州きくな



八尾えだまめ

出典：「大阪産(もん)データベース」<https://osaka-mon.org/commodity>

研究の流れ



①現場を知る



②現在のPRを分析



③課題を発見



④新しいPR方法を提案

5

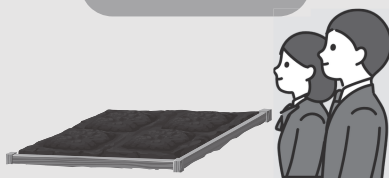
出典：城元風花・田中通葉・末綱彩雲・網谷香穂・富田さくら（2025）「大阪産（もん）の地域振興への活用とその課題」『日本フードツーリズム学会誌』第4号，pp.50-55.

現場に行ったからこそ分かったこと

6

「実際に違いがある」

圃場見学



他産地との食べ比べ

【表-1】足代産地の食べ比べでの調査結果			
大阪産 「もん」	徳島産 「もん」	大分県 「もん」	大分県 「もん」
・食べ比べ ・食べ比べ ・食べ比べ ・食べ比べ ・食べ比べ	・食べ比べ ・食べ比べ ・食べ比べ ・食べ比べ ・食べ比べ	・食べ比べ ・食べ比べ ・食べ比べ ・食べ比べ ・食べ比べ	・食べ比べ ・食べ比べ ・食べ比べ ・食べ比べ ・食べ比べ

出典：城元風花・田中通葉・末綱彩雲・網谷香穂・富田さくら（2025）「大阪産（もん）の地域振興への活用とその課題」『日本フードツーリズム学会誌』第4号，pp.50-55.

7

新しいPR

8

出典：城元ほか（2025）「大阪産（もん）の地域振興への活用とその課題」『日本フードツーリズム学会誌』第4

研究→実践

- ・新しい層向けの**商品開発**
- ・料理の一部をお土産化
- ・店内で大阪産情報を発信
- ・外部イベントへの出店



おおさか飲食組合



おおさかもん祭り

9

現在の活動①(知る)



大阪府中央卸売市場 見学会

10

現在の活動②(体験)

11

子どもたちに「市場」をどう伝える？



説明だけでは難しい



「模擬セリ」



大阪産(もん)PR



大阪・関西万博



大学内での発信

学んだことを、
市場の中だけで終わらせない。



ラジオ出演



学会発表



食育イベント

12

新しい「伝え方」

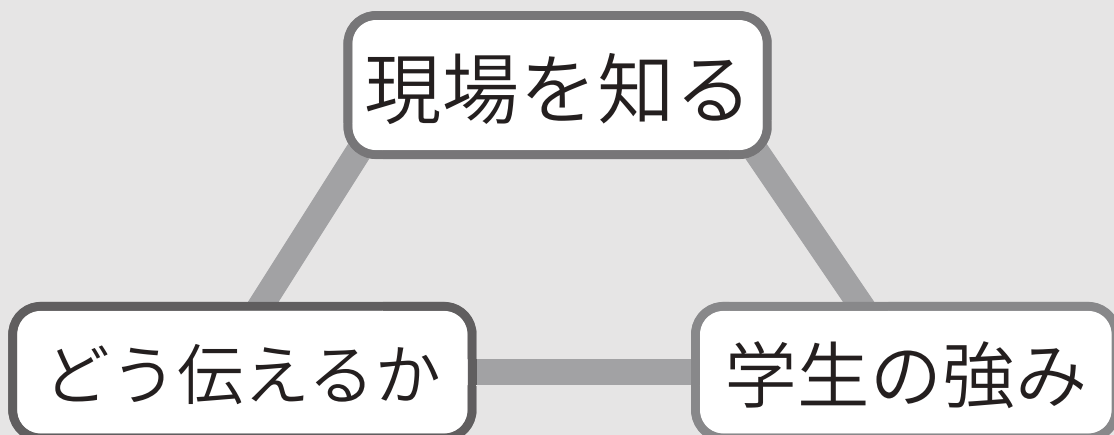
13

農業・市場 × アパレル



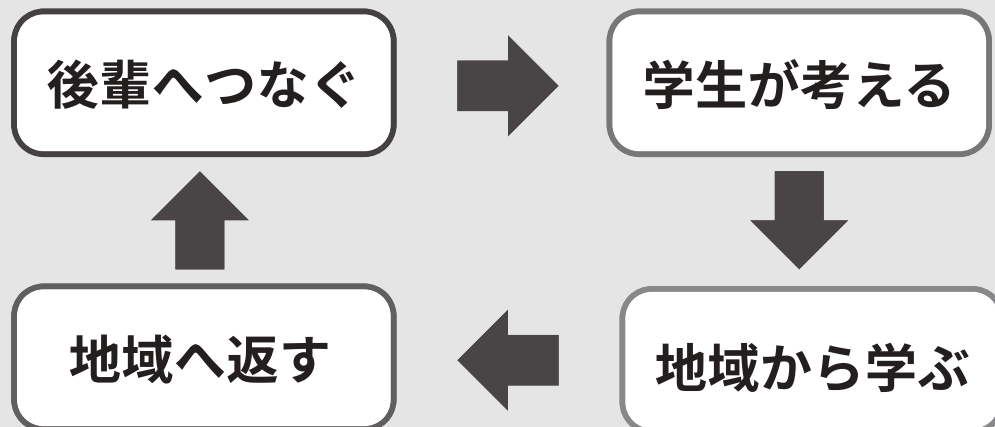
学んだ3つのこと

14



結論①

15



結論②

16

地域連携は、
一方的な地域貢献ではなく、
地域と学生が「共に学び」、
「次へつないでいく」こと。

参考文献

- ①村上喜郁編著（2024）
『大阪・北摂のガストロノミー―地域振興のための食資源―』
晃洋書房.
- ②城元風花・田中遥菜・末綱彩雲・網谷香穂・富田さくら（2025）
「大阪産（もん）の地域振興への活用とその課題」
『日本フードツーリズム学会誌』 第4号，pp.50-55.
- ③「大阪産(もん)データベース」 <https://osaka-mon.org/commodity>

各団体の発表

■大阪観光大学 観光学部 身玉山ゼミ（地域連携実践）

活 動 テ ー マ	阪南市の山中溪地域の観光振興連携
活 動 場 所	大阪府阪南市山中溪
連 携 先	大阪府阪南市未来創生部まちの活力創造課
活 動 主 体	大阪観光大学 観光学部 身玉山ゼミ（地域連携実践）

1. 活動概要

阪南市の課題
 海側の観光資源の充実 海、牡蠣、すだて遊びなど
 ⇔山側の観光資源の不足 桜、公園
 インバウンド対応 受け入れ態勢、多言語化など
 海と山の関連を伝える、生かす
 （阪南市様との打ち合わせより）
 →山側の観光魅力度の向上「山中溪の活性化」
 山中溪の観光資源の把握
 山中溪のまち歩き促進
 桜の季節以外の集客
 観光客受け入れに関する課題整理
 日帰りから宿泊へ（将来展望）
 ＊事前学習として阪南市様による講義も予定

2. 年間計画

令和8年
 4月09日（木）阪南市基礎知識・日程調整等
 4月10日（金）山中溪フィールドワーク 桜、わんぱく王国、廃墟、アート等視察、調査分析
 5月08日（金）阪南市役所で講義
 5月29日（金）山中溪フィールドワーク等（各学生の担当地点に分かれて実地調査）
 6月19日（金）調査結果分析・ディスカッション・成果発表準備
 6月26日（金）調査結果分析・ディスカッション・成果発表準備
 7月03日（金）調査結果分析・ディスカッション・成果発表準備
 7月10日（金）山中溪フィールドワーク等（銀の峰を実際に踏破して実地調査）
 7月17日（金）阪南市役所で成果発表

3. 活動成果

阪南市未来創生部まちの活力創造課様より課題についての講義があり、今年度は観光案内の多言語化に絞って地域連携実践活動を実施することとなった。

山中溪についての以下のことに関して4ヶ国語（日本語、英語、中国語、ベトナム語）で観光案内を作成し、阪南市未来創生部まちの活力創造課様において活用することとなった。

- 1、ずん 山中溪さくらまつり（日本語とベトナム語）
- 2、ガー 山中川のホタルの生息地（日本語とベトナム語）
- 3、なかいえ 銀の峰ハイキングコース（日本語と英語）
- 4、おがわ 第1パノラマ（銀の峰）（日本語と英語）
- 5、よしはら わんぱく王国（日本語と英語）
- 6、しゅいちじん 馬目王子跡（日本語と中国語）
- 7、ただの 地福寺（日本語と英語）
- 8、みたまやま 日本最後の仇討ち場（日本語と英語）

（できたものさらに4ヶ国語にしてそれぞれネイティブチェックを行った。）

4. 地域からの評価

阪南市未来創生部まちの活力創造課様から課題をいただき、フィールドワークにも同行していただき、わんぱく王国で現地での打ち合わせ場所を用意していただき、銀の峰にはほぼ全課を挙げて学生と一緒に踏破し、成果発表においては、多言語化の有意義性、機械翻訳のリスクとネイティブによる言い回しの有益性、学生ならではの視点と新しい発見について高評価いただき、引き続き連携を実施していただきたい旨の発言をいただいている。

5. 参考 WEB サイト

--

6. 活動メンバー

観光学部2年 づていずん、ふおんがーと、小川 啓斗、吉原 大輝、朱一じん、多々納海輝、
中家 詞音

7. 担当教員

観光学部 教授 身玉山 宗三郎

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪観光大学
所属先・職名	観光学部 教授
氏 名	身玉山 宗三郎
連絡先	電 話 072-453-8222
	メー ル s-mitamayama@tourism.ac.jp

9. 活動の様子



阪南市の山中溪地域の 観光振興連携

大阪観光大学
観光学部 身玉山ゼミ（地域連携実践）
令和8年10月10日（土）10時
地域連携 学生フォーラム in Osaka 2026
於 近畿大学

10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

1

概要

- 活動テーマ 阪南市の山中溪地域の観光振興連携
- 活動場所 大阪府阪南市山中溪
- 連携先 大阪府阪南市未来創生部まちの活力創造課
- 活動主体 大阪観光大学観光学部 身玉山ゼミ（地域連携実践）

10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

2

大阪観光大学と阪南市山中溪の場所



地図出典：じゃらん <https://www.jalan.net/rentacar/drive/270000/3559/> (2026.09.11.)
10/10/26 大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

大阪観光大学と阪南市山中溪の場所



出典：BBQまる (https://bbq-maru.com/#google_vignette) をベースに筆者作成。

10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

4

活動概要（阪南市の課題）

- 海側の観光資源の充実 海、牡蠣、すだて遊びなど
- ⇔山側の観光資源の不足 桜、公園
- インバウンド対応 受け入れ態勢、多言語化など
- 海と山の関連を伝える、生かす
- →山側の観光魅力度の向上「山中溪の活性化」
- 山中溪の観光資源の把握
- 山中溪のまち歩きの促進
- 桜の季節以外の集客
- 観光客受け入れに関する課題整理
- 日帰りから宿泊へ（将来展望）

10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

5

活動概要（観光案内の多言語化）

- 今年度は観光案内の多言語化に絞って地域連携実践活動を実施することとなった。
- 山中溪についての以下のことに関して4ヶ国語（日本語、英語、中国語、ベトナム語）で観光案内を作成し、阪南市未来創生部まちの活力創造課様において活用することとなった。
- 1、ずん 山中溪さくらまつり（日本語とベトナム語）
- 2、がー 山中川のホタルの生息地（日本語とベトナム語）
- 3、よしはら わんぱく王国（日本語と英語）
- 4、なかいえ 銀の峰ハイキングコース（日本語と英語）
- 5、おがわ 第1パノラマ（銀の峰）（日本語と英語）
- 6、しゅいちじん 馬目王子跡（日本語と中国語）
- 7、ただの 地福寺（日本語と英語）
- 8、みたまやま 日本最後の仇討ち場（日本語と英語）
- （できたもののさらに4ヶ国語にしてそれぞれネイティブチェックを行った。）

10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

6

活動概要（前期計画）

- 令和8年
- 3月（現地予備調査・桜まつり視察等）
- 4月9日（木） 阪南市基礎知識・日程調整等
- 4月10日（金）山中溪フィールドワーク 桜、わんぱく王国、廃墟、アート等視察、調査分析
- 5月08日（金）阪南市役所で講義
- 5月29日（金）山中溪フィールドワーク等（各学生の担当地点に分かれて実地調査）
- 6月19日（金）調査結果分析・ディスカッション・成果発表準備
- 6月26日（金）調査結果分析・ディスカッション・成果発表準備
- 7月03日（金）調査結果分析・ディスカッション・成果発表準備
- 7月10日（金）山中溪フィールドワーク等（銀の峰を実際に踏破して実地調査）
- 7月17日（金）阪南市役所で成果発表

10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

7

活動成果（1、ずん 山中溪さくらまつり）

山中溪桜まつりは、毎年春に開催される人気のお祭りです。満開の桜を楽しみながら、屋台やステージイベント、地域の文化を体験することができます。多くの観光客が訪れ、にぎやかな雰囲気になります。

Yamanakadani Cherry Blossom Festival is a popular spring event held every year. Visitors can enjoy beautiful cherry blossoms, food stalls, stage performances, and local culture. Many people come to enjoy the lively atmosphere.

山中溪桜花节是每年春天举办的人气活动。游客可以欣赏盛开的樱花，体验美食摊位、舞台表演和当地文化。每年都会吸引许多游客前来参观。

Lễ hội hoa anh đào Yamanakadani là sự kiện nổi tiếng được tổ chức vào mỗi mùa xuân. Du khách có thể ngắm hoa anh đào nở rộ, thưởng thức các gian hàng ẩm thực, xem biểu diễn và trải nghiệm văn hóa địa phương. Mỗi năm lễ hội thu hút rất nhiều người đến tham quan.



10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

8

活動成果（2、がー 山中川のホタルの生息地）

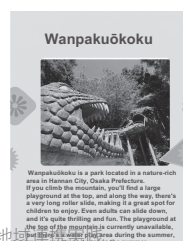
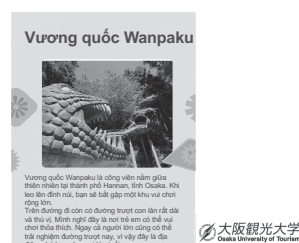


10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

9

活動成果（3 よしはら わんぱく王国）



10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

10

活動成果（４、なかいえ 銀の峰ハイキングコース）

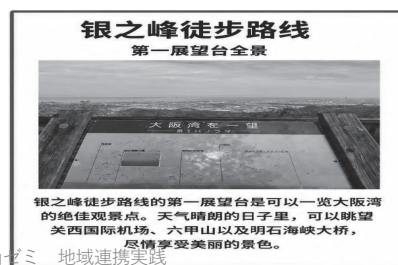
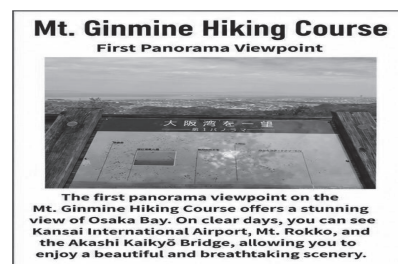


10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

11

活動成果（５、おがわ 第１パノラマ（銀の峰）



10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

12

活動報告（6、しゅいちじん 馬目王子跡）



10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

13

活動報告（7、ただの 地福寺）



10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

14

活動報告（8、みたまやま 日本最後の仇討ち場）



10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

15

まとめ・気づきの点（ずん）

- 山中溪の観光振興政策についての提言（ずん）
- SNS（Instagram・TikTokなど）で山中溪桜
- まつりを積極的にPRする。
- 外国人向けの多言語パンフレットや案
- 内板を増やす。
- QRコード付きの観光マップを設置する。
- 地元の食べ物や特産品を楽しめるイベ
- ントを増やす。
- 地域住民と観光客が交流できる体験型
- イベントを企画する。

10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

16

まとめ・気づきの点（がー）

- 山中溪の観光振興政策についての提言（がー）
- 壁にウォールアートを描く。
- ランタナの花を植えて景観を整える。
- 川沿いの入り口に街灯を設置する。

10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

17

まとめ・気づきの点（よしはら）

- 苦労したことは、なれないアプリでパンフレットを作るのと色んな言語で作ること。
- ネイティブの文章を書くのは色んな国の人に直接聞くことが大切。
- 強調したい事は、わんぱく王国は何も無いと思われがちだがハイキングもでき、子供と楽しめる遊具があるという事。

10/10/26

大阪観光大学 身玉山ゼミ 地域連携実践

18

まとめ・気づきの点（なかいえ）

- 強調したいことは、一人でハイキングコースへ行くことをおすすめしないと言う事。
- 苦労したことはなれないアプリでの作成と、調べて作る事と、正しいか分からない多言語でも文章を作成すること。

まとめ・気づきの点（おがわ）

- 強調したいことは山を登るのがしんどいとゆうこと。
- 苦労したことはとても暑かったこと。

まとめ・気づきの点（しゅいちじん）

- 気づきの点は、史跡が小さすぎて、見つけにくいこと。

まとめ・気づきの点（ただの）

- 実際にその場所に行って感じる事の大切さを強調したい。
- インターネットで調べても地福寺の情報が少なかった。
- たのは苦勞した。
- 今まで知らなかった阪南市の観光地や地域の魅力を知ることができた。
- ・山中溪の観光振興政策についての提言（ただの）
- インターネットでのPRにもう少し力を入れると良いかもと感じた。

まとめ・気づきの点（みたまやま）

- インターネットで日本最後の仇討ちと検索すると複数の事件がヒットするが、阪南市山中溪の仇討ちは、江戸幕府の免状を得ていること、しかしながら、明治維新の移行期の中で紀伊藩が藩外でのみ仇討ちを許したため、国境の阪南市山中溪で仇討ちが行われたという法制史的に興味深い事実・ナラティブのアピールが必要と感じられた。

まとめ・気づきの点（地域からの評価）

- 阪南市未来創生部まちの活力創造課様（地域）から課題をいただき、フィールドワークにも同行していただいた。
- 地域からわんぱく王国で現地での打ち合わせ場所を用意していただき、銀の峰にはほぼ全課を挙げて学生と一緒に踏破した。
- 成果発表においては、地域から、多言語化の有意義性、機械翻訳のリスクとネイティブによる言い回しの有益性、学生ならではの視点と新しい発見について高評価いただき、引き続き連携を実施していただきたい旨の発言をいただいている。

参考文献

- 日本経済団体連合会（2025年10月14日）
持続可能な観光立国の実現に向けて－次期観光立
国推進基本計画に向けた提言－

Thank You!

各団体の発表

■大阪経済大学 経営学部 古賀ゼミ

活 動 テー マ	地域間交流の中で地域担い手づくり～あいはし×ひがしよどがわ～
活 動 場 所	大阪市東淀川区・兵庫県
連 携 先	あいはしコミュニティセンター（兵庫県豊岡市合橋地区） 東淀川区役所、東淀川区の企業（安積濾紙株式会社、大阪冶金興業株式会社、 飯田織工株式会社、株式会社山本博工務店）
活 動 主 体	大阪経済大学 経営学部 古賀ゼミ

1. 活動概要

東淀川区役所（地域課）の方のお話によれば、区の「地域課題」について、少子高齢化、1人世帯が増加する中、自治会・町内会への加入率が大幅に減少して、自治会や町内会の持つ“たすけあいの実現”や“地域のつながりづくり”としての機能が弱まっているとのこと。また、全労災のアンケート調査によると、“たすけあいがあふれる社会”に共感する人は少ないという結果が出ているとのこと。しかし、実際に自分が困っているときに助けを求めることができる人は少数派であるという結果も同時に出ていて、住民同士のたすけあいが実現していない現状があるとのこと。こうした地域課題の根底にある問題は、地域の担い手や地域の諸活動を担う人材の不足の問題があると思われます。東淀川区役所地域課では、「東淀川みらいEXPO」をはじめとする、様々な企画やイベントで区を盛り上げています。その際に大切なのは、「住民たちがコミュニティに求めるものは、いったい何か？」という住民ニーズを十分に理解することだと東淀川区役所（地域課）の方はおっしゃいます。こうした問題は、都市部のみならず、本学が長年、交流がある兵庫県豊岡市合橋地区の山村部においても同様な問題を抱えています。わたしたちは、都市部と山村部の地域間交流を通じて、地域の魅力や特色を生かしたまたは融合した企画やイベントでこのような地域の担い手や地域の諸活動を担う人材の不足を解消できないかと考え活動を行っています。地域のことをどれだけ愛しているかという“エンゲージメント”は大切です。その担い手にとっての“始める理由”にもなりますし、“やり続ける理由”として気持ちの中の大きな割合を占めると思われます。

2. 年間計画

- 2026年1月：東淀川区役所職員による講演会実施
- 2026年3月：東淀川区区役所主催「東淀川みらい会議」で企業さまと意見交換
- 2026年3月：兵庫県豊岡市合橋地区（合橋地区コミュニティセンター）訪問
- 2026年4月：企画・イベントのコンセプトづくり
- 2026年6～8月：東淀川区の企業（安積濾紙株式会社、飯田織工株式会社、株式会社山本博工務店、大阪冶金興業株式会社）へのインタビュー実地調査
- 2026年8月：大阪電気通信大学主催の「テクノフェア in ねやがわ」に出展参加
（「産業×自然でものづくり体験～アップサイクル・リサイクル廃材アート～」）
- 2026年8月：兵庫県豊岡市合橋地区でのイベント実施
- 2026年12月：かみしんプラザ（東淀川区）「産業×自然でものづくり体験」イベント
開催予定

3. 活動成果

活動が現在進行中であり、2026年8月22日の豊岡市合橋地区でのイベントや2026年12月に開催予定のみしんプラザ（東淀川区）「産業×自然でものづくり体験」イベントにて活動成果が得られると考えます。

4. 地域からの評価

2026年8月22日の豊岡市合橋地区でのイベントで連携地域からの評価を得たいと思います。

5. 参考 WEB サイト

豊岡市合橋地区でイベントを実施します。

大阪経済大学

<https://www.osaka-ue.ac.jp/life/community/zemi/kk/20260822.html>

6. 活動メンバー

経営学部 3 年

平松 琉星、倉田 康生、武田 寛斗、池田 大翔、山本 詩、小川 寧音、諸原 秀樹、
中田 雨音、杉本 華音、岩田 沙樹、池田 和笑、山川 心琴、永宮 理乃、徳山莉乃音、
山下 流空、櫻井 心、笠井 駿佑、西郷 風咲、田中 悠斗、石原 宏彬

7. 担当教員

経営学部 教授 古賀 敬作

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪経済大学
所属先・職名	経営学部 教授
氏 名	古賀 敬作
連絡先	電 話 090-7722-9569
	メー ル k_koga@osaka-ue.ac.jp

9. 活動の様子



コミュニティあいはいし事務局事業

大阪経済大学 学生企画

夏の思い出大作戦！

夏休みの工作にも！

モルック体験

あいはいし

大阪経済大学

ひがしよどがわ

地域夏祭り！

楽しいコーナーたくさん！

体も頭もつかえる！

8/22

10:00~16:00

場所 合橋地区コミュニティセンター

LEDカード作り

パラプレスレット

MIMで作るメダル

★詳しくは裏面★

① 考 水で光る！ LED カード作り

自分の好きな塗り絵カードをえらび、色を塗ります。水で光る電池を作り電気の通り道を書きカードに貼り付けます。スイッチを押せばどか光るオリジナルカードが作れます。

② 結 パラプレスレット作り

パラで染め色した素材を使ってプレスレットを作ります。合橋地区農林館にあるバラ園のバラの花びらで染めたものを使用します。

③ 掘 MIM で作るメダル

MIM（ミム） 部品が出来るまで

鉄の粉で固めた土台（※MIM）を好きな絵柄に彫刻で掘り、それを企業に提出し、焼いて固めてもらい、後日お返しします。オリジナルのメダルを作ろう！※ものづくりの最先端技術である「金属粉末射出成型（Metal Injection Molding）」の体験

④ 遊 地域交流モルック体験

巷で話題の、フィンランド発祥の木製の棒を投げて楽しむ大注目スポーツ「モルック」体験！

私たちと一緒に楽しい時間を過ごしましょう！

申込期間：8月17日（月）

【問い合わせ・申込み】 合橋地区コミュニティセンター
TEL/FAX 0795-54-0990（9：00-17：00 火曜休）
MAIL alhashi-cc@office.eonet.ne.jp

★右記 QRコードより申し込みいただけます★

申込フォーム

大阪経済大学の学生が企画

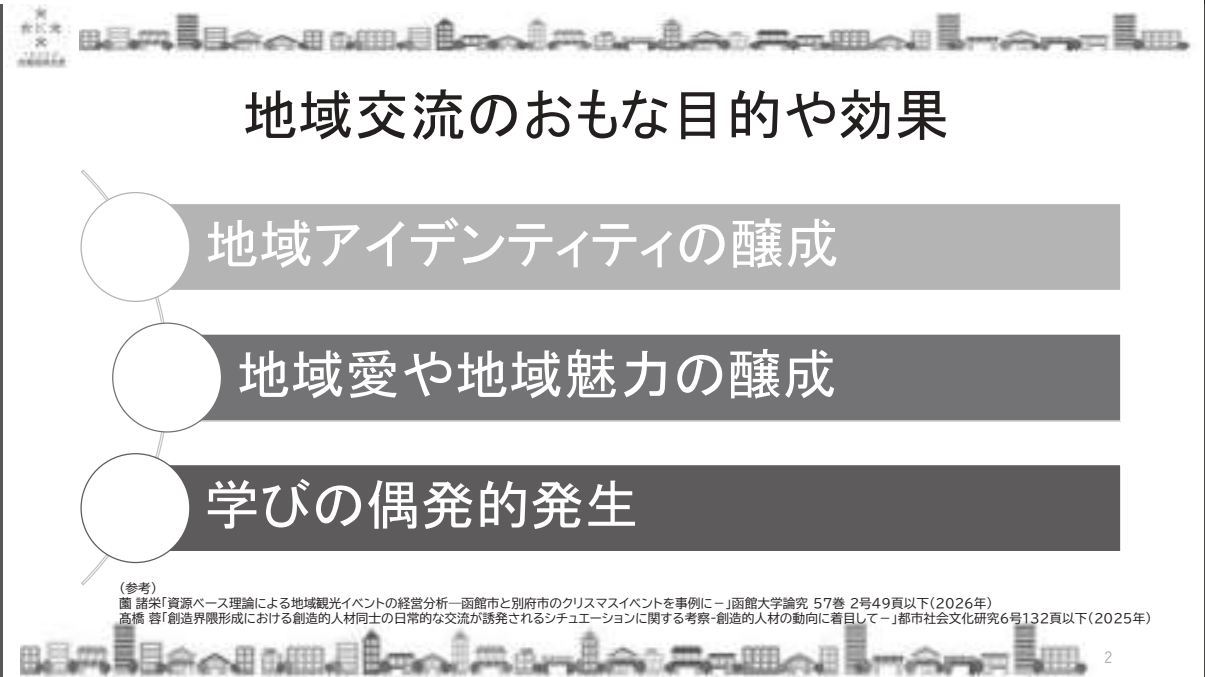


地域交流の中で地域担い手づくり ～あいはし×ひがしよどがわく

大阪経済大学経営学部 古賀ゼミ



1



地域交流のおもな目的や効果

地域アイデンティティの醸成

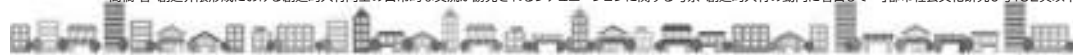
地域愛や地域魅力の醸成

学びの偶発的発生

(参考)

園 諸米「資源ベース理論による地域観光イベントの経営分析—函館市と別府市のクリスマスイベントを事例に—」函館大学論究 57巻 2号49頁以下(2026年)

高橋 杏「創造境界形成における創造的人材同士の日常的な交流が誘発されるシチュエーションに関する考察—創造的人材の動向に着目して—」都市社会文化研究6号132頁以下(2025年)



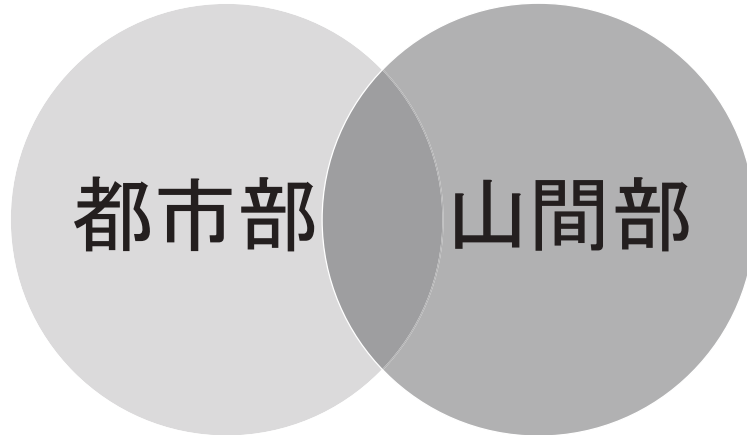
2

2015年4月より“地域の未来のため大学は何ができるのか”“どんな取り組みが地方を元気にするのか”を考える「地域づくりプロジェクト」を立ち上げ、学生へボランティア情報を発信して、地域等の取り組みと連携させるコーディネートする取り組み・長期的連携を視野に入れた学生派遣

3

[illegible]

共通の地域課題を探る



5

あいし地区の概要

2025.4.1現在	
集落数	16区
人口	1447人
世帯数	640世帯
高齢化率	46.2%

2025.5.1現在	
合橋小学校	66区
但東中学校	77人
合橋認定こども園	640世帯

(出所)環境省「部門別CO2排出量の現況推計」<https://www.env.go.jp/policy/local_keikaku/tools/suikei.html>

6



地域コミュニティ形成と地域活性

●地域コミュニティ組織



旧小学校区で区切られた豊岡市独自の住民自治組織で、2017年に市内全29地区で発足。従来の地区公民館をコミュニティセンターとして刷新し、地域振興・人づくり・防災・福祉など、地域に住まう人自らがそれぞれの地域の課題に即した活動を展開。

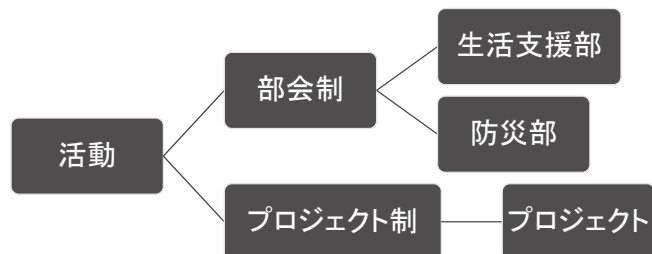
[/policy/local_keikaku/tools/suikai.html](https://policy/local_keikaku/tools/suikai.html)



7



コミュニティあいはし ハイブリッドな組織体制”で取り組むコミュニティ活動



(出所) 環境省「部門別CO2排出量の現況推計」<https://www.env.go.jp/policy/local_keikaku/tools/suikai.html>



8

部会制活動 生活支援



令和6年度、大阪経済大学の学生さんにまごの手で活動にご協力いただきました

(出所)環境省「部門別CO2排出量の現況推計」<https://www.env.go.jp/policy/local_keikaku/tools/suikai.html>

9

プロジェクト制

草花で合橋を元気に

事前ふれあいあい体験

合橋の宝探し

合橋わくわく農場

夏休み こども集まれ！大阪経済大学×あいはし

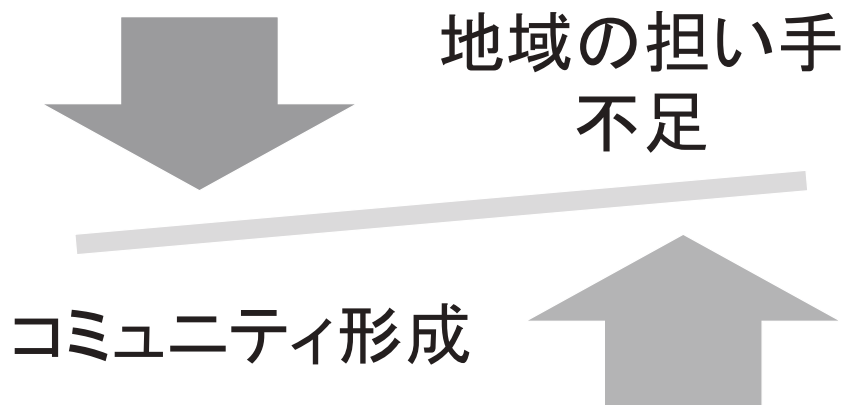
多世代交流 グランドゴルフ大会 etc.



(出所)環境省「部門別CO2排出量の現況推計」<https://www.env.go.jp/policy/local_keikaku/tools/suikai.html>

10

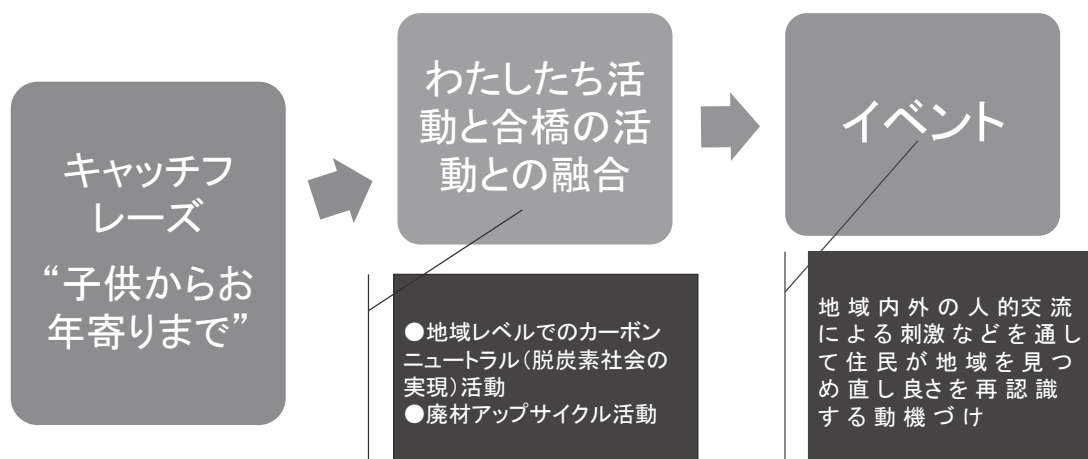
あいはしの課題？



(出所)環境省「部門別CO2排出量の現況推計」<https://www.env.go.jp/policy/local_keikaku/tools/suikai.html>

11

わたしたちの取り組み(よそものによる刺激)



(出所)環境省「伝統的産業を軸としたイベント活動と観光まちづくりの円滑化に関する一考—兵庫県篠山市今田町を事例として—」>

12



融合

シルクとピンクの町 合橋

兵庫県豊岡市但東町

【合橋地区】の特徴

- ツタンカーメン豆やバラジャムなどピンクなものがある。
- 養蚕業が盛んだったからシルクと名の付く施設がある。



13



融合

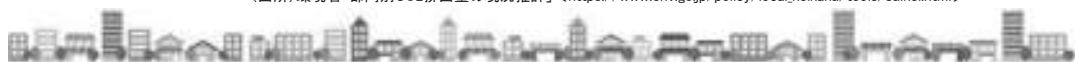
衣服や金属を中心にものづくり 東淀川区



飯田織工株式会社
IIDA SENKO CO., LTD.



(出所)環境省「部門別CO2排出量の現況推計」<https://www.env.go.jp/policy/local_keikaku/tools/suikai.html>



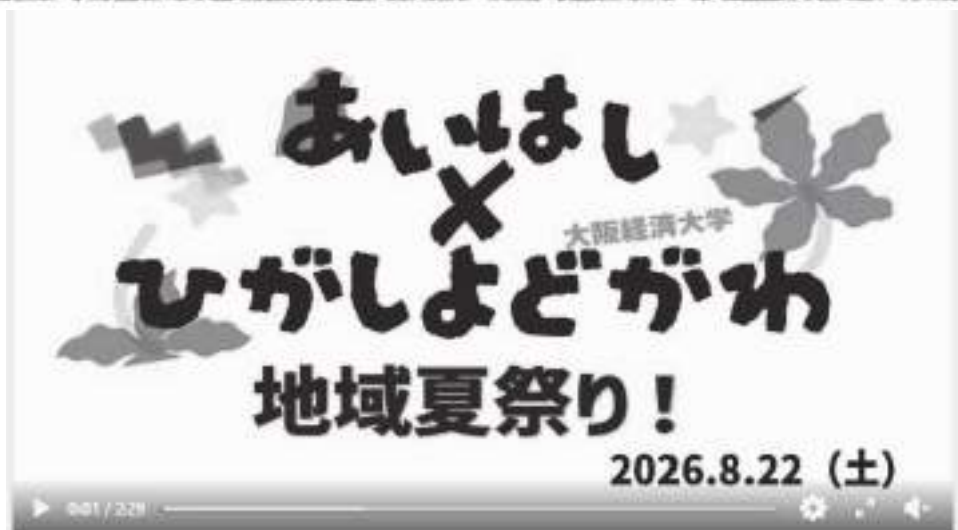
14

融合

廃材や合橋の特産品を
使用して体験型工作
(ブレスレット)



15



(出所)環境省「部門別CO2排出量の現況推計」<https://www.env.go.jp/policy/local_keikaku/tools/suikei.html>

16

(大阪市)ひがしよどがわの概要

地域データ

基本データ



指標

大阪府内順位、世帯数、平均世帯人数、高齢化率

世帯数	9.7万世帯 (2019年)
平均世帯人数	1.76人/世帯 (2019年)
高齢化率	25.0% (2019年)
平均所得	379万円 (2019年・世帯)

人口	17.2万人 (2019年)
世帯数	9.7万世帯 (2019年)
高齢化率	25.0% (2019年)
平均所得	379万円 (2019年・世帯)
人口密度	1.76人/世帯 (2019年)
人口増加率	0.1% (2019年)
人口減少率	0.1% (2019年)
人口増加率	0.1% (2019年)
人口減少率	0.1% (2019年)
人口増加率	0.1% (2019年)
人口減少率	0.1% (2019年)

(出所)「まちのとびらー数字で読み解く日本」<<https://machinotobira.jp/mirai/city/27114/>>

17

コミュニティ形成の課題(2023年度調査)

調査テーマ:SDGs×地域魅力発見で、関係人口の創出による都市部の地域活性化



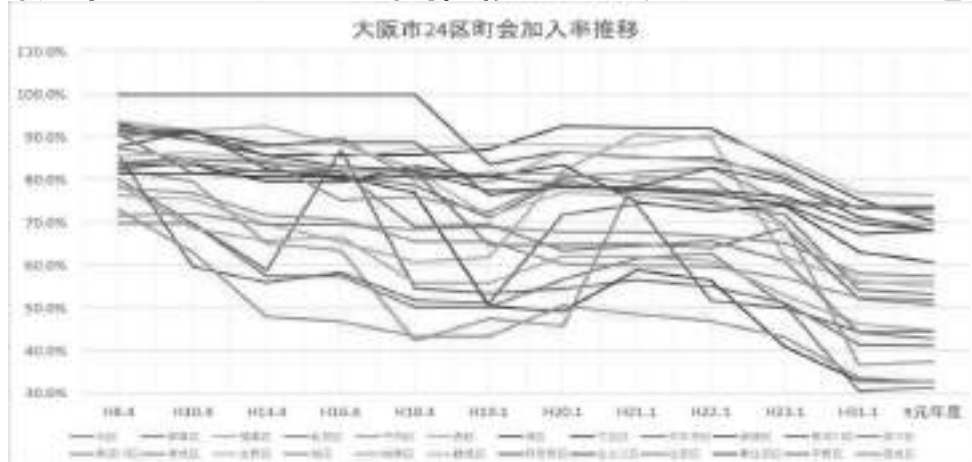
ご近所付き合いの軽薄化
参加メンバーの固定化



高齢化に伴う
地縁団体(町会)の存続危機

18

大阪市町内会加入率推移→地域担い手への懸念



課題改善

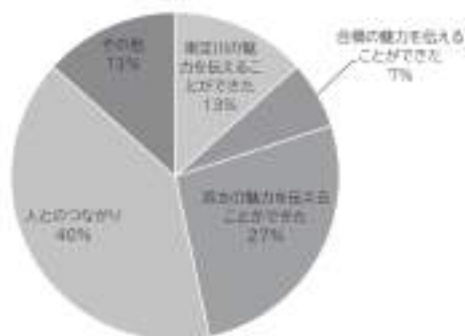
- ・住民のニーズは、いったい何？
- ・コミュニティに求めるものは、いったい何？





アンケート結果 (コミュニティあいはしによる参加学生へのアンケート)

・この交流にどんな意義があると思いますか？



- 地域は地域のひとたちに
- 交流でききっかけづくり



21



コミュニティあいはし×古賀ゼミ

ご清聴ありがとうございました。



22

各団体の発表

■大阪国際大学 経営経済学部 経済学科

活 動 テ ー マ	門真団地活性化プロジェクト
活 動 場 所	大阪府門真市
連 携 先	協働：新門真住宅自治会 協働：門真市まちづくり部 都市政策課・市民文化部 地域政策課
活 動 主 体	大阪国際大学 経営経済学部 経済学科

1. 活動概要

新門真住宅自治会と門真市から、少子高齢化が進む門真団地において「認知症の進行や孤独死を防ぐため、門真団地の住民が外出したくなるような企画を考えて実践して欲しい」との依頼が大阪国際大学にあり、2021年度から実践しているプロジェクト。

2021年度：教育・研究・社会貢献の拠点「みらいづくり研究所」の設立、
農場づくりなど

2022年度：移動販売のサポート、「0円ショップ」の開設など

2023年度：餅つき大会のサポート、クリスマス会の開催など

2024年度：映画観賞会の開催、住民の方々へのヒアリング調査など

2025年度：住民の方々への突撃インタビュー、
門真団地の思い出発表会の開催など

なお、このプロジェクトは、大阪国際大学 経営経済学部 経済学科と新門真住宅自治会、門真市都市政策課・地域政策課の三者が協働し、実践しています。

学内での協力組織：地域協働センター（組織的な地域連携の支援）

2. 年間計画

前期（4月～7月）、後期（10月～1月）の授業開講期間に、PBL（課題解決型学修）の手法を用い、政策過程をベースに、門真団地の調査や課題解決の企画を創造し、実践しています。

なお、具体的な企画については、受講学生及び新門真住宅自治会の方々の合意形成を図った上で展開しています。

3. 活動成果

門真団地における学生（よそ者・若者・バカ者）のPBL「突撃インタビュー（前期）～門真団地の思い出発表会（後期）」を通じて、門真団地は約60年の年月を経て人それぞれの生活や記憶が積み重なった場所であることに改めて気づかされました。

また、2025年度は、門真団地の方々を大学にお招きする「キャンパスツアー」を開催しました。キャンパスに目を輝かせている門真団地の方々を、学生（孫）達がキャンパスを案内している姿を目の当たりにしました。

リーフレットを作成し、地域に広く配付しました。

門真団地活性化プロジェクト 団地から始まる、学びと挑戦
大阪国際大学×門真団地 2021-2025の軌跡

4. 地域からの評価

2010年の砂子校区祭より、大阪国際大学の学生さんとの交流が始まりました。2021年度からは、新門真住宅自治会の高齢化による孤独死や認知症が少しでも少なくなるように、家庭訪問や0円ショップ、農園で野菜を育てたり、またある時は、集会所でゲーム遊びなどをしたり、高齢者のボケ防止に大変なご協力をしていただきました。

この16年間、多くの学生を見てきましたが、素晴らしい学生です。

本当に有難う。心より感謝しています。

新門真住宅自治会 自治会長 淀井 慧さん

5. 参考 WEB サイト

大阪国際大学 体験型プログラム「門真団地活性化プロジェクト」

<https://www.oiu.ac.jp/kadoma/>



大阪国際大学 地域協働センター活動事例報告（2025年度）―地域との協働・共創の推進―

<https://www.oiu.ac.jp/2026/04/10/26479/>



地域の課題！門真団地の高齢者の悩みを大阪国際大学の学生が解決！もりかどじゃーなるが密着してみた！（YouTube）

https://www.youtube.com/watch?v=HXcT_zfyKog&t=1s



6. 活動メンバー

大阪国際大学 経営経済学部 経済学科「地域創造演習」及び「プロジェクト演習Ⅲ」受講学生

7. 担当教員

経営経済学部 経済学科 講師 小竹森 晃

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名		大阪国際大学
所属先・職名		経営経済学部 経済学科 講師
氏 名		小竹森 晃
連絡先	電 話	06-6902-0791（代表）
	メー ル	a-kotakemori@oiu.jp

9. 活動の様子

リーフレット（A4横長・両面）を作成し、地域に広く配付。

門真団地活性化プロジェクト

団地から始まる、学びと挑戦

大阪国際大学×門真団地 2021-2025の軌跡



大阪国際大学
大阪国際大学短期大学部



学生との協働が育んだ地域の絆

2010年の砂子校区築より、大阪国際大学の学生さんとの交流が始まりました。2021年度からは、新門真住宅自治会の高齢化による孤独死や認知症が少しでもなくなるように、草席訪問や円ショップ、農園で野菜を育てたり、またある時は、集会所でゲーム遊びなどをしたり、高齢者のボケ防止に大変なご協力も頂きました。この16年間、多くの学生さんを見てきたが、素晴らしい学生さんです。本当に有難う。心より感謝しています。

新門真住宅自治会
自治会長 渡井 雅 さん



つながりの中で広がった私の学び

2025年度前期の授業で門真団地を訪ね、ご高齢の住民の方々とお話を伺いました。後期には、その内容を私たち学生の気付きをもとめ内容を住民の方に直接伝えるという経験ができました。さらに、住民の方々に大学に聞いてキャンパスツアーを行い、講座や学食を案内しました。「大学に来てみたかった」と喜んでくださる姿がとても印象に残っています。門真団地の方々にとっての大学と、私たちにとっての門真団地を考えたときに、縁は当たり前のように感じている場所も、誰かにとっては特別な場所になることを住民の方々と交流で学びました。これから自分の特別な場所がひとつ増えたりするような経験をしていきたいと感じました。

経営経済学部 経済学科
森元 莉緒 さん(3年)



1年間のPBLで得た確かな手応え

私が門真団地でのPBLで学んだことは、交流することの大切さです。2025年度前期の授業インタビューでは、インタビューができた人が少なかったものの、一人ひとり寄り添いながら進んでいきました。そのインタビューで、私が印象に残った言葉があります。それは、「久しぶりに若い人と喋れて楽しかった。」と言ってくれた方がいました。そこで、初めて地域との交流の大切さを学びました。後期の最後の授業では、キャンパスツアーを行いました。特に、学食でのランチタイムでは、大学の施設や学んでいることを話しながら、食事を楽しめました。この約1年間の門真団地でのPBLを通して、私たち学生と門真団地の方々との交流を深めることで、より地域は元気になることを考えました。

経営経済学部 経済学科
廣谷 紫 さん(3年)

門真市役所さまよりメッセージ

平素は、本市協働事業にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。今回のプロジェクトについては、高齢化が進む門真団地の自治会から、「団地住民が外出したくなるような企画を考えたほしい」との依頼を受け、学生の皆様を中心として、自治会や行政と連携しながら、課題解決のための方策について考え、実行していただいている事業であります。本市での居住者が多いこの門真団地にとって、学生の皆様との交流は、人々とのつながりから生まれる幸福をもたらす、暮らしを豊かにする上で重要な役割を担っており、若い力と地域活性化へのPCC設置、餅つき大会などの各種イベントは、地域の活性化に大きな寄与をしてくださりました。協働事業の担当者といたしまして、学生の積極的な創造性と丁寧な実行力に深く敬意を表するとともに、本事業への多大なるご協力に感謝申し上げます。今後とも地域社会の一翼を担う皆様の更なるご活躍を祈念いたしまして、結びの言葉とさせていただきます。

門真市 市民文化部 地域政策課
上田 純平 さん、南 航平 さん

OGからのメッセージ

門真団地PBLを通じて連携行動の大切さを学びました。これは、自分に割り当てられた役割だけでなく、集団の中で果たすべき物語を自ら考え、チームメンバーと協力することで課題の解決につながる、という体験を通して学ぶことができたからです。実際に仕事でも、その場で決められたチームで作業に取りかかればなりません。その時に、チーム全体で取り組む活動にどの役割で貢献できるかを理解し、お互いにとってプラスとなるコミュニケーションをしながら効率的に仕事を進められました。このように、授業で取り組んだことは社会に出てからも役立つ、様々な問題や困難を解決するための手段につながっています。多くを学び、豊な経験を積むことで、対応力の向上や人間関係の成長を促します。そのためには、大学での授業には真摯に向き合い、結果に活動することが大切です。長くはなりませんが、皆さんの将来の夢多き道を、次の言葉に託させていただきます。目標に向かって、最後まで諦めず頑張ってください。

経営経済学部 経済学科
黒山 佳巳 さん(2023年度 卒業生)



キャンパスツアー

門真団地の方々を大学に招待し、学食で学生(新)と一緒に食卓(カフカール)を食べ、学生のキャンパス案内がはじまりました。キャンパスツアーでは、開放的な椅子に座り、「一度いいから、こんな場所まで授業を受けてみたかった。」や「大学に入ったことが無かったので貴重な体験ができた。」などの声も聞かれました。女性の参加者から「あなたの顔と声を忘れへん」「元気になって！」と声をかけられた学生も居ました。



「門真団地の思い出」発表会

学生(新)達が、門真団地の方々のお宅を訪ね、計66人の方々に、門真団地の思い出についてお話を伺いました。そのお話を基に、門真団地の思い出について学生が発表し、門真団地の方々と思い出を共有しました。発表会では、「あ、〇〇に住んでいる人や」「あれ〇〇さんやね、久しぶりに見たわ」などの声も聞かれました。門真団地は約60年の年月を経て、人それぞれの生活や記憶が積み重なった場所となっています。

※ PBL (Project-Based Learning: プロジェクト型学習/課題解決型学習) は、正解のない現実的な課題に対してチームで調査・仮説立案・実験を行い、解決策を導き出す能動的な学習手法です。知識の暗記ではなく、問題解決能力、主体性、協働力など社会で求められる実力を養う「アクティブラーニング」の一環です。

大阪国際大学
大阪国際大学短期大学部

経営経済学部 経済学科
地域協働センター



HP



YouTube



Instagram

T570-8555 大阪府守口市藤田町6-21-57
TEL: 06(6902)0617 (直)
FAX: 06(6902)0619
Mail: collabo@oju.jp

上記：新門真住宅自治会自治会長、学生、卒業生、門真市市民文化部地域政策課からのメッセージ

START!

2021

地域創造演習スタート!
「みらいづくり研究所」創設

農場づくりと餅つき大会

地域の方と力を合わせ、農場づくりや餅つき大会をサポート。

スマホ教室のはじまり

高齢の方の声に寄り添い、スマホ講座を開講




学生と大阪国際大学 の力で団地が変わる 地域に飛び込み、挑戦する力

地域課題の解決に挑む学生たちも、暮らしを支える団地の住民、互いの立場を理解し、協力しながら進める活動の中で、「誰かを支えること」が「自分自身の成長につながる」ことを実感しています。世代や立場を超えて、ともに未来を育んでいく取り組みが、ここ門真団地で実を結びました。



More to come
地域と学生の未来へ!

キャンパスツアー

団地の「出」表会




ありがとう、門真団地。 未来へつながる記憶

昭和の団地ブームとともに誕生し、多くの家族の暮らしを支えてきた門真団地。子どもたちの声が響き、季節の行事でにぎわった日々。半世紀以上にわたり育まれた営みは、今も人々の記憶に残り続けます。近年は大阪国際大学の学生たちが訪れ、交流やさまざまな活動を通じて新たなつながりが生まれました。世代を超えて重ねられた時間も、この場所の大切な歴史の一部です。ここで育まれてきた記憶と絆は形を変えながら、これからも地域の暮らしの中で息づいていきます。



2023

砂子秋祭り

留学生も地域の一品として参加し、祭りの準備や運営を通して日本の文化にふれました。

門真団地在住の大工さんと机づくり

農場の整備を進め、誰かが集える地域交流の場をつくりました。

団地のつながりづくり

防災意識の啓発活動

防災食の配布やお話し会を開き、みんなで安全について考えるきっかけになりました。

クリスマス会 映画会

季節のイベントを通して、住民どうしの交流をさらに深めました。

学生と教員の学び

地域の方々と協力しながら活動を経験することで、継続することの大切さを実感しました。

2024

プロジェクト演習III スタート!

住民の方のお話を丁寧に聞き、解決に向けた方法を一緒に考えました。

門真団地もちつき大会

恒例の行事で、学生も餅つきに挑戦。世代をこえて笑顔が広がりました。

0円ショップのスタート

リノベーションした空間を活かし、物を通して人がつながる交流の場をつくりました。

砂子秋祭り

小学生と一緒に、山車を引き、地域のにぎわいを肌で感じました。

移動販売のサポート

荷物運びを手伝い、NHK取材で注目されました。

2022 団地訪問

住民のみなさんとお話をうかがい、地域が抱える課題を知るところから始めました。

学生と教員の学び

地域課題の解決には、お金だけでなく、人と人のつながりや会意づくりが大切です。

お茶会やビンゴ大会、映画会、手編み会などを開き、交流を深めました。

課題解決の実践

地域の課題から課題の解決まで、学生が自ら考え行動しました。

学生と教員の学び

地域の方のために活動することで、自分自身の成長を実感しました。

2025

突撃インタビュー

「門真団地」を発見



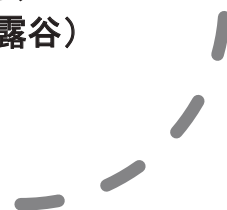
大阪国際大学 門真団地活性化プロジェクト

大阪国際大学 経営経済学部 経済学科

「プロジェクト演習Ⅲ」

目次

- ①自己紹介
- ②プロジェクトの概要と門真団地の現状
- ③門真団地について
- ④取り組み内容
 - (1)突撃インタビュー
 - (2)トランプ大会
 - (3)キャンパスツアー
 - (4)「門真団地」の発表会
- ⑤私たちの学び（森元・露谷）
- ⑥団地の方の反応
- ⑦終わりに



自己紹介

①名前・ニックネーム ②学年
③生まれ・出身 ④趣味

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| ①森元莉羅・りら | ①露谷悠・つゆにい |
| ②4回生 | ②4回生 |
| ③大阪府寝屋川市
生まれ・出身 | ③和歌山県御坊市生まれ
大阪府吹田市出身 |
| ④字を書くこと | ④航空祭に行くこと |



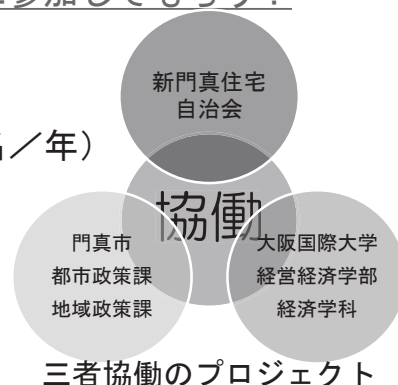
門真住宅地域活性化プロジェクトとは？

◆目的：

門真団地住民が外出したくなるような企画を、学生に考えて欲しい。
＝住民の孤独死・認知症を進行を、少しでも防ぎたい。
⇒独りぼっちの住民に、地域のコミュニティに参加してもらう！

◆学生が参加することによって生まれた効果：

新たに地域のコミュニティに参加する人（数名／年）
「学生と話ができ、毎週楽しみにしている」
という住民の声も♪
⇒学生がお誘いに行くと出てきてくれる！



団地の現状

- ・入居開始後、30年以上経過した住宅団地が約51%
(入居開始時期不明が約3割)

→老朽化

- ・入居開始後、40年以上経過した住宅団地では、半数以上で高齢化率が30%超

→高齢化

国土交通省「住宅団地における課題と取組」
<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/content/001984962.pdf>
(最終アクセス：2026年8月28日)

門真団地について

①基本情報

大阪府門真市にある大規模な団地
設立して約60年

②特徴

設立当初からこの団地に住んでいる
住民も多い

団地内で住民同士の交流やつながり
がある

③私たちと門真団地

大学と門真団地で地域連携
(2021年～)



取り組み内容



突撃インタビュー



トランプ大会



キャンパスツアー



「門真団地思い出」
発表会

突撃インタビュー

①概要：学生が門真団地の方々のお宅を訪ねて、「門真団地の思い出」についてお話を伺った。

→計56人の方々とお話をした。

②例えば、

・「門真団地に住もうと思ったきっかけは？」

→抽選で当選したから・以前住んでいた家の家賃の関係など

・「門真団地の思い出は？」

→子どもが多かった・子どもたちとの運動会など





トランプ大会

①目的

団地の高齢化→学生と住民の方々との交流

②活動内容

団地を訪問し、住民の方々と七並べ・神経衰弱を一緒に楽しんだ

③住民の方々からの声

「久しぶりに頭を使うわ〜」

「若い子とこんなことができて嬉しい。」

④活動を通して

トランプ大会をきっかけに、世代を超えて笑顔で交流することができた

キャンパスツアー

①概要：門真団地の方々を大学に招待し、学食で昼食を取った後、学生がキャンパス内を案内した。

②住民の方々の感想

- ・教室の椅子に座り、
「こんな場所で授業受けてみたかった。」
「大学に入ったことが無かったから、貴重な体験ができた。」などの声が上がった。
- ・ツアー中には、参加者の女性から学生に
「あなたの顔と声が忘れへん。」
「元気にしてた？」と声をかけてくれた。





「門真団地の 思い出」発表会

①概要：学生が団地の住民56人を訪ねて思い出を聞き、その内容を発表した。

②住民の方々感想

- ・「〇〇に住んでいる人だ」

「久しぶりに見た」といった声が上がった。

→住民同士で思い出を共有する場となった。

私たちの学び（森元）

①キャンパスツアー

「大学に来てみたかった」と喜んでくださる姿が印象に残った。

②「交流」を通して得た学び

- ・団地の方々にとって大学・学年にとって門真団地を考えた際、普段当たり前に過ごしている場所も誰かにとっては特別な場所になることを学んだ。

- ・これから自分の特別な場所がひとつでも増やせるような経験をしていきたい。

私たちの学び（露谷）

①門真団地でのPBLを通して学んだこと

団地の方々と交流することの大切さを学んだ。

②突撃インタビュー

- ・一人ひとりと寄り添いながら楽しく実施ができた。
- ・住民の言葉：「久しぶりに若い人と喋れて楽しかった。」

③キャンパスツアー

ランチでは、大学施設や学びについて話し合いながら交流を深めた。

地域の方の反応

新門真団地住宅自治会 自治会長 淀井さん

①交流の始まり：2010年の砂子校区祭より大阪国際大学の学生との交流がスタート

→高齢化に伴う孤独死や認知症を減らす取り組みとして実施

②取り組み内容（2021年～）：家庭訪問・農園野菜づくり
集会所でゲーム遊びなど

③学生へのメッセージ：16年間多くの学生を見てきたが、非常に素晴らしい学生たちであり、心より感謝をしている。

地域と学生のつながり

①交流を通して生まれるつながり

突撃インタビューやトランプ大会、キャンパスツアーなどの交流を通して、地域の方々と深く交流できた。

②お互いを知ることから生まれるつながり

住民の方々の思い出や経験を知り、学生の日常や大学を見てもらうことで、世代を超えたつながりが生まれた。

これからも、地域と学生が互いに関わり合い
「また会いたい」と思える関係を大切にしていきたい

参考文献

・国土交通省「住宅団地における課題と取組」

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/content/001984962.pdf>

(最終アクセス:2026年8月28日)

各団体の発表

■大阪国際大学 経営経済学部 経営学科 スポーツビジネスコース

活 動 テー マ	アクティブヘルスプロジェクト
活 動 場 所	イオンモール大日
連 携 先	共催：株式会社大阪ブルテオン、公益財団法人枚方スポーツ協会 後援：守口市（市民生活部 生涯学習・スポーツ振興課） 協力：イオンリテール株式会社
活 動 主 体	大阪国際大学 経営経済学部 経営学科 スポーツビジネスコース

1. 活動概要

今年度から、地域住民の健康づくりを目的とした「アクティブヘルスプロジェクト」を開始した。本活動は、スポーツビジネスコースの学生が中心となり、スポーツや健康をテーマに、地域社会とのつながりの中で実践的に学ぶ地域連携活動である。

イオンモール大日において、大阪ブルテオン、公益財団法人枚方市スポーツ協会等と連携し、血圧測定、体組成測定、握力、歩行機能などの健康チェックや、eスポーツを活用した健康体験を実施した。子どもから高齢者まで幅広い世代の地域住民に参加いただき、自身の健康状態を知る機会や、スポーツ・健康を身近に感じる場を提供した。

学生は、イベントの企画・運営、参加者対応、スポーツ組織との連携を経験し、スポーツが地域貢献や健康づくりに果たす役割について実践的に学んでいる。

学内での協力組織：地域協働センター（組織的な地域連携の支援）

2. 年間計画

4 月	活動内容の検討、健康測定・健康支援イベントの企画、学生間での役割分担
5 月	実施に向けた準備、連携先との調整、運営方法の確認、健康測定・健康支援イベントの実施（第1回）
6 月	イベント内容の改善、運営準備、健康測定・健康支援イベントの実施（第2回）
7 月～8 月	活動成果のまとめ、参加者アンケートの集計・分析
9 月以降	成果報告資料の作成、活動内容の発信、次年度に向けた課題整理・改善検討

3. 活動成果

本活動は、スポーツビジネスを学ぶ学生が中心となり、健康測定・健康支援サービスの企画、運営、参加者対応を実践的に行った。地域住民を対象に、体力測定、体組成測定、身体機能測定、eスポーツ体験などを実施し、スポーツや健康を活用した地域貢献活動を展開することができた。

また、大学、地域、スポーツチームが連携することで、健康づくりを支援する場を創出するとともに、スポーツが地域住民とのつながりを生み出す役割について実践的に検証する機会となった。学生にとっては、授業で学んだスポーツビジネスや地域連携の知識を実際の現場で活用し、イベント運営や地域課題への対応力を身につける貴重な経験となった。

本活動を通じて、学生主体による地域連携型の健康支援モデルを実践することができ、今後の継続的な取組につながる基盤を構築することができた。

4. 地域からの評価

本事業で実施した健康測定・健康支援サービスは、地域住民が自身の健康状態を知り、今後の健康づくりを考えるきっかけとして評価を得ることができた。アンケートでは、測定により自身の体力や健康状態への理解が深まったと回答した参加者は70%を超え、健康づくりへの意識向上につながる取組となった。

また、「本サービスが地域住民の健康づくりに役立つ」と回答した割合は83%を超え、大学生が中心となった健康支援活動や、大学・スポーツチームが連携した取組についても多くの参加者から意義や価値を評価された。

さらに、今後も同様のサービスが実施されれば参加したいと回答した割合は85%を超え、継続的な健康支援への期待が示された。

健康測定を通じた自身の健康への気づきに加え、身近な場所で気軽に参加できる健康づくりの機会として、地域住民から一定の評価を得ることができた。

5. 参考 WEB サイト

第1回目

経営学科 西田ゼミ 地域住民の健康づくり「アクティブヘルスプロジェクト」実施

<https://www.oiu.ac.jp/2026/06/04/27965/>



第2回目

経営学科 西田ゼミ 地域住民の健康づくり「アクティブヘルスプロジェクト」第2弾を実施

<https://www.oiu.ac.jp/2026/06/30/28479/>



大阪国際大学 地域協働センター活動事例報告（2025年度）―地域との協働・共創の推進―

<https://www.oiu.ac.jp/2026/04/10/26479/>



6. 活動メンバー

スポーツビジネスコース3年（11名）

趙 伶訓、東 晴太郎、内海 裕太、木村 蒼太、京谷 橙空、金城 翔悟、城野琥太郎、
東村 一政、富岡 哲也、西村 壮真、宮本 彰太

スポーツビジネスコース2年（7名）

大木 晴哉、柴 暖華、デマルコ ティーガンマエ、豊島 璃久、橋本 一輝、日野 大彪、
山川 優生

7. 担当教員

経営経済学部 経営学科 講師 西田 千裕

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪国際大学
所属先・職名	経営経済学部 経営学科 講師
氏 名	西田 千裕
連絡先	電 話 06-6902-0791（代表）
	メー ル c-nishida@oiu.jp

9. 活動の様子



大阪国際大学 経営経済学部 経営学科 スポーツビジネスコース
アクティブヘルスプロジェクト

イオンモール大日 × 大阪国際大学
大阪国際大学の学生さんと
一緒に楽しむ
「健康づくり」
イベント

日程 6月21日（日）
時間 12:00～16:00
（最終受付 15:40）
場所 4F バンダイナムコクロスストア前

■実施内容

- ・ 血圧、体組成（体重・体脂肪率・筋量等）
- ・ 身体機能測定（握力等・椅子立ち上がりテスト）
- ・ アンケート
- ・ モーションセンサーを活用したeスポーツ（TANO）体験

■対象

- ・ 体力測定は18歳以上の方 ・ eスポーツ体験はどなたでもご参加可能
- ・ 安全面に配慮し、体調不良の方、医師から運動を制限されている方、妊娠中の方、ペースメーカー等の医療機器をご使用の方は、体力測定および体組成測定（InBody）への参加をご遠慮いただいております。また、当日の体調や状況により、スタッフの判断で測定をご遠慮いただく場合があります。

■参加方法 予約不要・当日参加可能

大阪国際大学 スポーツビジネスコース & 大阪ブルデオン
アクティブヘルスプロジェクト in イオンモール大日

健康状態をチェックしてみませんか？ 1つでも、全ての種目でもOKです！

TANO（eスポーツ体験）	画面に向かって楽しく全身を動かすアクティビティです！お子様からシニアまでどなたでもご参加頂けます！	5分
Inbody（体組成分析）	体組成を測定します。筋肉量、体脂肪率などがわかります！（測定時は靴下を脱いで測定します） 心臓ペースメーカー装着の方、妊娠されている方は安全性の観点からご遠慮しております。	7分
握力	左右の握力を2回ずつ計測します。 握力は全身の筋力や、筋量と相関しているため健康状態を把握するための重要な指標の一つです！	5分
片足 椅子立ち上がりテスト	片足で椅子から立ち上がれるか、5回の連続動作による立ち上がりのスピードを計測します。	7分
5回 椅子立ち上がりテスト	日常動作に必要な下肢筋力やバランス能力をチェックできます！	7分
血圧	現在の血圧値を計測します。 健康のバロメーターである心臓の負担や血管の状態がわかります！	5分
2ステップテスト	大股2歩の歩行距離と身長から、歩行能力を数値化します。総合的なバランス能力、柔軟性などの歩行能力をチェックできます！	5分

■参加特典のご案内
測定に1つ以上ご参加いただき、アンケートにご協力いただいた先着100名様に大阪国際大学 & 大阪ブルデオンコラボうちわを進呈いたします。

■特別企画 大阪ブルデオンのマスコット「ハビネス」のグリーティング
① 12:30～12:50 ② 14:00～14:20 ③ 15:20～15:40
※登場スケジュールは予告なく変更・中止となる場合がございます。

主催：大阪国際大学 経営経済学部 スポーツビジネスコース
共催：大阪ブルデオン・（公財）枚方市スポーツ協会

アンケートにご協力
お願いします



地域連携 学生フォーラム in Osaka 2026

大阪国際大学 「地域住民の健康づくりイベント」 アクティブヘルスプロジェクト In イオンモール大日

経営経済学部 経営学科 スポーツビジネスコース



アクティブヘルスプロジェクト 活動目的

地域貢献

住民の健康意識向上と、スポーツ・健康を身近に感じられる場の提供

実践的学び

- ・プロチームのコンテンツを活用したイベント企画・運営
- ・異なる団体と連携し、目標に向けて協働するプロセスの実践
- ・参加者行動を分析し、より効果的なアプローチ方法を学ぶ

アクティブヘルスプロジェクト 活動概要

活動日/場所 2026年5月29日（木）、6月21日（日）
イオンモール大日

プログラム

- ・ 健康チェック
血圧・体組成測定、握力、移動機能測定
- ・ 体験型企画
eスポーツ（TANO）を活用した全身運動

対象者 子どもから高齢者まで
幅広い世代の地域住民



年間計画

4月 活動内容の検討、イベントの企画、学生間での役割分担

5月 準備、連携先との調整、運営方法確認、ノベルティー制作、事前検証（プレイベント）

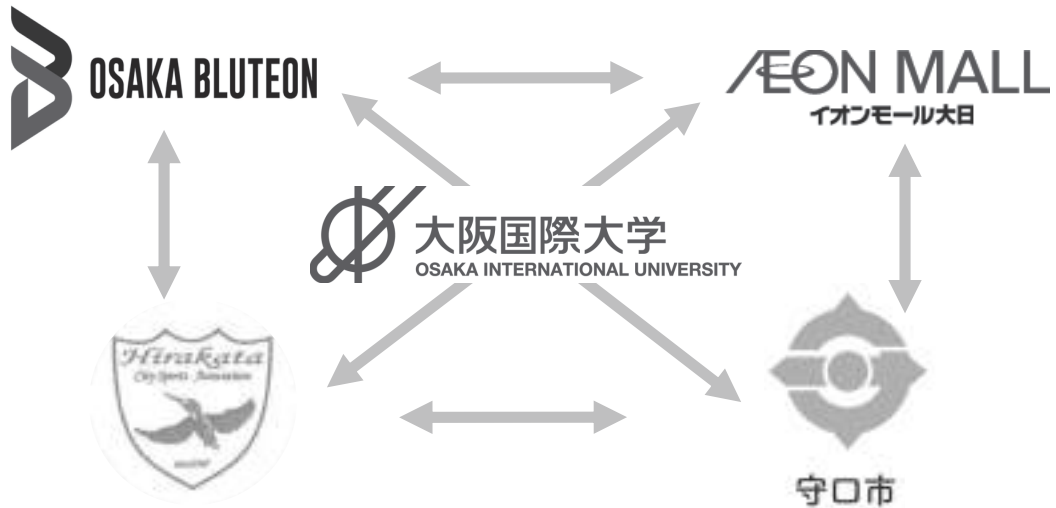
6月 内容の改善を検討、運営準備、イベントの実施



7月～8月 活動成果のまとめ、参加者アンケートの集計・分析

9月以降 成果報告資料の作成、課題整理・改善検討

アクティブヘルスプロジェクト連携体制



広報媒体・告知資料

イオンモール大日HP



大阪ブルテオンHP



来場者特典

大阪国際大学 & 大阪ブルテオン 共同制作「コラボうちわ」



大阪ブルテオン マスコットキャラクター 「パピネス」グリーティング



イベント開催までの活動



当日の活動 「健康チェック」測定

体組成



血圧

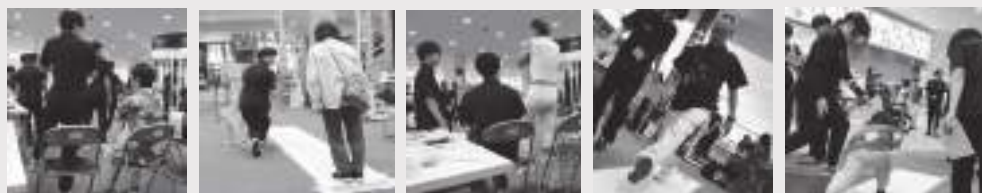


握力



移動機能

2ステップテスト・椅子立ち上がりテスト 等



大阪国際大学
OSAKA INTERNATIONAL UNIVERSITY

当日の活動 「eスポーツ体験 TANO」サポート

TANO = TANOTECH株式会社 モーションセンサー型トレーニングシステム

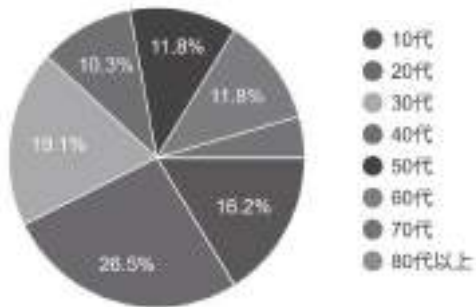


大阪国際大学
OSAKA INTERNATIONAL UNIVERSITY

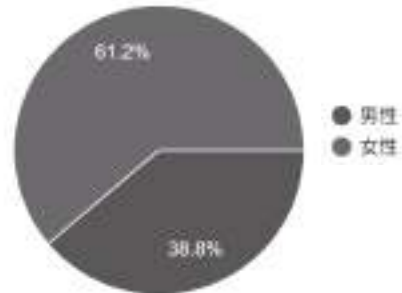
アンケート結果

n=68

参加者の年代



性別



アンケート結果

n=68

健康意識の向上

体力・健康状態の
理解が深まった



連携の価値

大学・チーム・団体が
一体となった活動に
価値がある



事業の有用性

地域住民の
健康づくりに
役立つ



継続への期待

このような機会
があればまた
参加したい



活動を通して得られた成果

地域社会への還元

多世代が健康づくりに参加できる場を創出、地域の健康意識向上に貢献

学生の学び

企画・運営から振り返りまでを経験し、スポーツの「ささえる」視点を実践的に学修

連携の成果

大学・スポーツチーム・協会・自治体が連携し、それぞれの強みを生かした地域課題への取り組みを実現



スポーツを通じた地域の健康づくりへの貢献と、
学生の実践的な学びの場の創出に向けて、
さまざまな地域へ活動を広げていきます。



活動に際し、ご指導・ご協力下さいました皆様に、心より御礼申し上げます。

ご清聴ありがとうございました



各団体の発表

■大阪電気通信大学 建築・デザイン学部 インテリアデザイン実践

活動テーマ	Create For 小学校 PJ
活動場所	大阪府寝屋川市
連携先	寝屋川市立中央小学校
活動主体	大阪電気通信大学 建築・デザイン学部 インテリアデザイン実践

1. 活動概要

この活動のテーマは、空間デザイン思考で学校環境に革新をもたらすべく、大学生たちの新しい知識を活かして、こどもたちが直面する課題を効果的に解決するソリューションをオリジナルの「家具」として小学校に提供することで、こどもたちの心理的安心性の向上と教育環境の改善を目指しています。

また材料は木材で、繋がりのある木材店や工務店などから廃材を提供してもらい、製作に活用します。

2. 年間計画

4月頃からその年の課題（内容や設置場所など）を小学校側と一緒に検討しはじめ、8月頃までに課題を決定する。後期（10月頃）から実際に課題を開始し、12月後半に製作を完了し、小学校側へ最終プレゼンを行う。

3. 活動成果

建築・デザイン学科の授業「インテリアデザイン実践」（後期）において、2025年度は寝屋川市立中央小学校のため、小学生が利用する「本棚」を、大学生たちが自分たちでコンセプトを考え、デザイン・製作し、8台寄贈した。

最終プレゼンでは、質疑応答などで、小学生は普段とは違う大学という環境にも関わらず、堂々とした感想を述べていて、大学生も自分たちが制作した実作の感想を小学生から聞けるという、通常の授業では味わえないような経験を得ることができた。

4. 地域からの評価

設置場所が、小学校内の鍵の掛かる図書館ではなく、通りがかりに目に留まりやすく、いつでも行ける場所に設置されたため、本が好きな子どもはもちろん、そうでない子どもたちにも興味が湧いたようです。また教室に馴染めない子どもたちのちょっとした拠り所にもなっているようです。

また、それを実際に中央小学校で見られた親御さんたち、別の小学校や寝屋川市の方々にも良い反響で、2026年度は寝屋川市立神田小学校で計画を進めています。

5. 参考 WEB サイト

https://www.osakac.ac.jp/project_now/1637

6. 活動メンバー

上田 直幸、河上嗣侑己、曾田 大智、ほか約40名

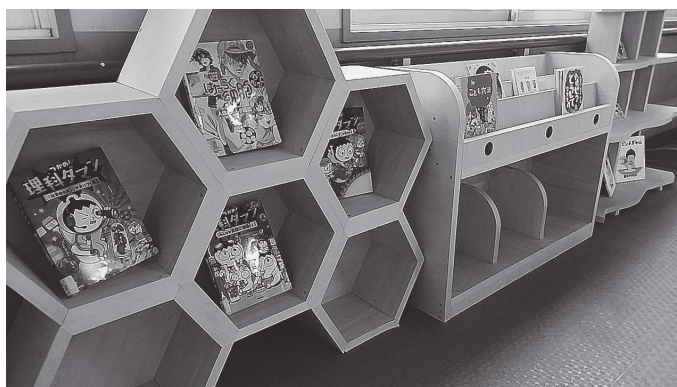
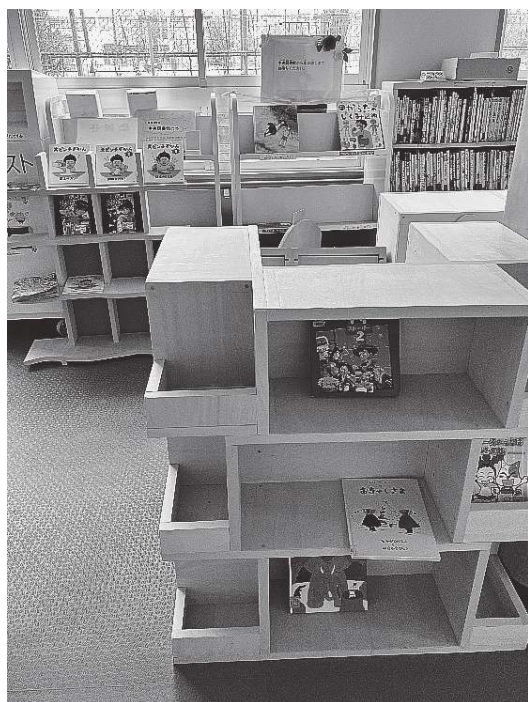
7. 担当教員

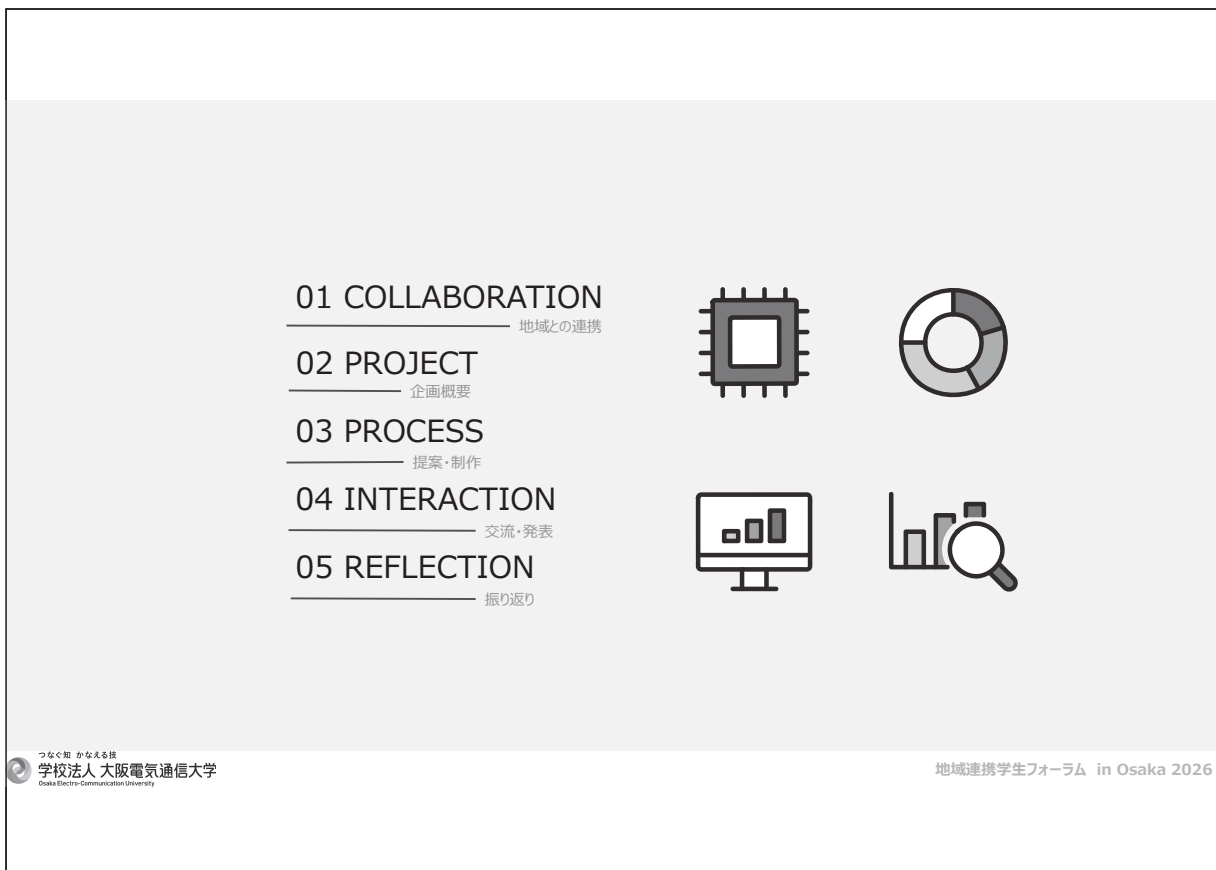
大阪電気通信大学 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 空間デザイン専攻
教授 梅原 悟

8. 本活動に関する連絡先

大学名	大阪電気通信大学
所属先・職名	建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 空間デザイン専攻 教授
氏名	梅原 悟
連絡先	電話 072-824-1131 (代)
	メール s-umehara@osakac.ac.jp

9. 活動の様子

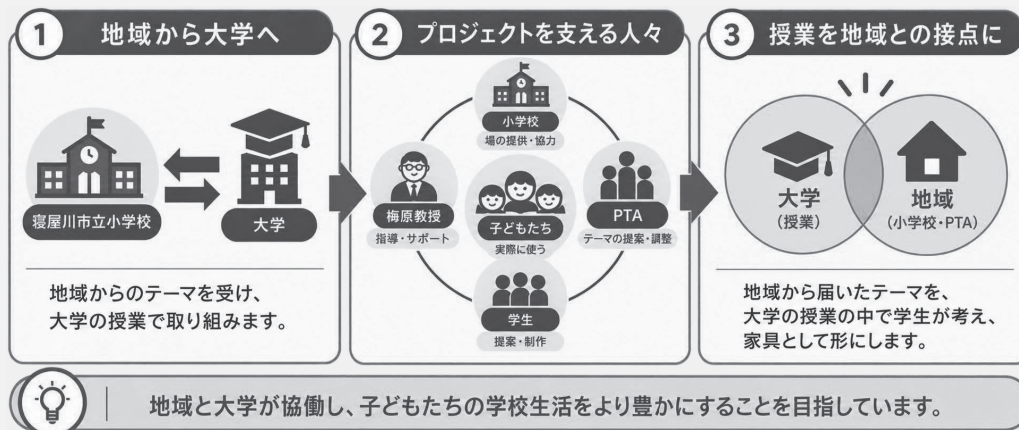




01 COLLABORATION

地域との連携

小学校・PTA・大学・学生が関わり、
地域からのテーマを授業の中でカタチにする取り組みです。



つなぐ知 かなえる技
学校法人 大阪電気通信大学
Osaka Electric Communication University

地域連携学生フォーラム in Osaka 2026

01 COLLABORATION

インテリアデザイン実践 | 梅原 悟 教授



小学校での会議の様子



課題の説明の様子

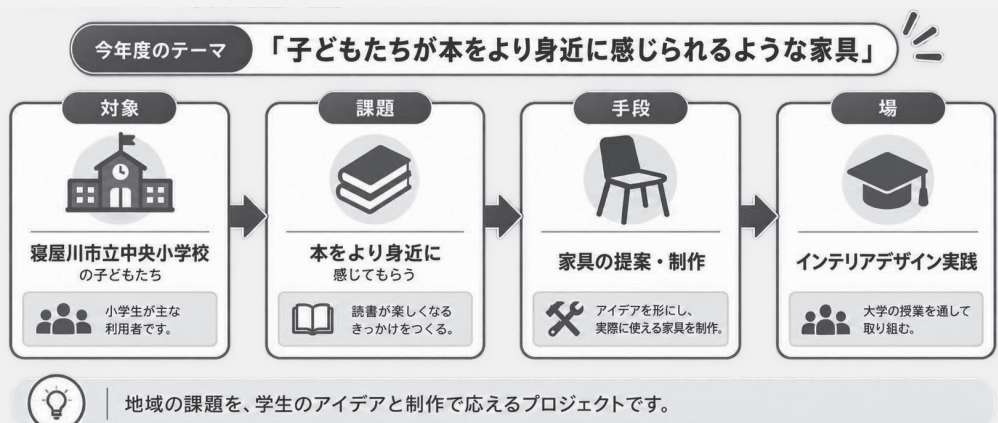
つなぐ知 かなえる技
学校法人 大阪電気通信大学
Osaka Electric Communication University

地域連携学生フォーラム in Osaka 2026

02 PROJECT

企画概要

今回のプロジェクトは、地域から提示されたテーマを元に、大学の授業を通して家具を提案・制作する取り組みです。



つなぐ 知 かなえる 技
 学校法人 大阪電気通信大学
 Osaka Electric Communication University

地域連携学生フォーラム in Osaka 2026

03 PROCESS

提案・制作のプロセス

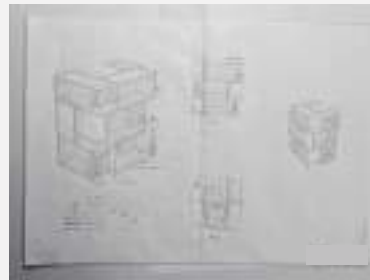
講義内で与えられたテーマをもとに、アイデアを考え、選抜し、実際の家具として制作しました。



つなぐ 知 かなえる 技
 学校法人 大阪電気通信大学
 Osaka Electric Communication University

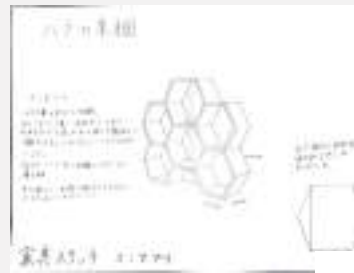
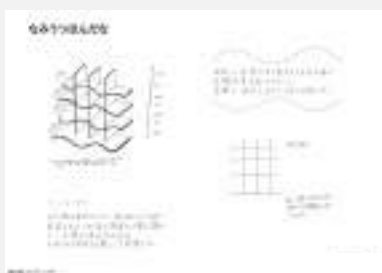
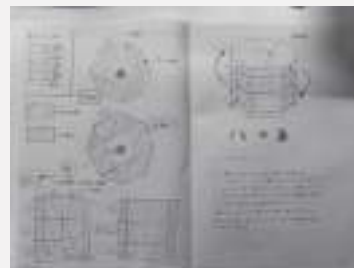
地域連携学生フォーラム in Osaka 2026

03 PROCESS



プレゼンシート

03 PROCESS



プレゼンシート

03 PROCESS



制作の様子

03 PROCESS



04 INTERACTION

最終プレゼン 全員集合！

制作した8つの家具を、学内のアトリエにて、子供たち・教員・地域の方々に発表・体験してもらいます。



04 INTERACTION



発表の様子

04 INTERACTION



搬入・設置

05 REFLECTION

振り返り

プロジェクト全体を振り返り、学び・気づきを言葉にし、次につながる視点を共有します。





各団体の発表

■関西大学 人間健康学部 村川ゼミ①

活 動 テー マ	エディブルケア活動
活 動 場 所	堺市堺区浅香山地域
連 携 先	浅香山校区自治連合協議会、NPO 法人 kokoima、関西大学環境都市工学部、地域住民
活 動 主 体	関西大学 人間健康学部 村川ゼミ

1. 活動概要

浅香山でのエディブルケア活動は、地域の人々とのつながりを大切にしながら、地域に新たな関係性を生み出すことを目指して取り組んでいます。活動のきっかけとなったのは、香ヶ丘商店街を拠点に活動する NPO 法人 kokoima との連携です。kokoima では、地域コミュニティの形成と、場所にとらわれない居場所づくりを目的に、キッチン屋台やミニシアター屋台、自転車屋台などを活用した活動を行っています。私たち関西大学の学生も、絵本の読み聞かせなどを通して地域活動に参加してきました。こうした地域とのつながりを土台として、古着を再利用した布ポットで野菜を育てる「エディブルケア」に取り組み、地域の方々と一緒に育て、収穫し、食べるという体験を通じた交流の場づくりを進めています。

2. 年間計画

年間を通して「エディブル巡り」と「畑での野菜づくり」を活動の二つの柱としています。エディブル巡りでは、地域に設置した布ポットを学生が訪ね、野菜の成長を確認するとともに、地域の方々と会話を交わしながら活動の輪を広げます。畑では、季節に合わせて野菜の植え付け、水やり、手入れ、収穫を行い、その過程を地域の方々と共有します。

また、年2回開催される「浅香山フェス」では、収穫した野菜を使った企画や布ポットづくりなどを通して、活動を地域に紹介します。地域の祭りやイベントにも参加し、新たな住民や団体とのつながりをつくります。このように、「育てる→見守る→収穫する→食べる→人とつながる」という循環を繰り返すことで、エディブルケアを一時的なイベントではなく、地域の日常に根付く活動へ育てていくことを目指しています。

3. 活動成果

活動を続けるなかで、学生が地域へ出かけて野菜の世話をするだけでなく、地域の方から声をかけていただいたり、野菜の成長について会話を交わしたりする機会が増えてきました。野菜という身近な存在が、人と人が出会い、話し始めるきっかけになっています。

また、学生にとっても、地域活動を「地域のために何かをすること」としてだけではなく、地域の方々と一緒に試行錯誤しながら場を育てていくこととして経験できたことは、大きな成果です。NPO、地域住民、大学の異なる学部の学生・教員など、多様な人々が関わることで、活動は学生だけでは成立しない地域協働の取り組みへと発展しています。こうした活動の蓄積を社会に発信するため、現在はグッドデザイン賞の審査にも挑戦しています。

4. 地域からの評価

活動の手応えが最もよく表れたのが、浅香山フェスでの取り組みです。畑で育てて収穫したジャガイモを使ってジャーマンポテトを作り、来場者に提供しました。自分たちが地域で育てたものを地域の人と一緒に食べることで、日頃の栽培活動が一つの交流の場へとつながりました。

アンケートでは、「美味しかった」という感想だけでなく、「自分も野菜を育ててみたい」「エディブルケアに参加してみたい」といった声が寄せられました。また、「地域のつながりを感じるフェスだった」という感想もありました。こうした声から、野菜を育て、収穫し、食べるという身近な営みが、地域への関心や新しい参加を生み出すきっかけになり得ることが分かりました。今後は、参加する人をさらに増やししながら、エディブルケアが地域の人々の日常的な交流を生み出す仕組みとなることを目指します。

5. 参考 WEB サイト

https://www.instagram.com/ediblecare_asakayama/?utm_source=ig_web_button_share_sheet

6. 活動メンバー

金子 丈真、尾崎 航平、今井 康太

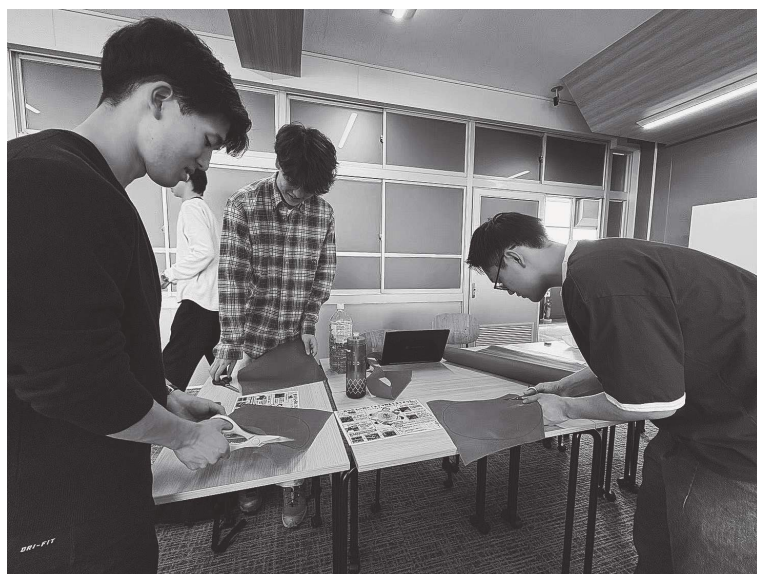
7. 担当教員

関西大学 教授 村川 治彦

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	関西大学
所属先・職名	人間健康学部 人間健康学科 教授
氏 名	村川 治彦
連絡先	電 話 080-6119-2520
	メー ル murakawa@kansai-u.ac.jp

9. 活動の様子

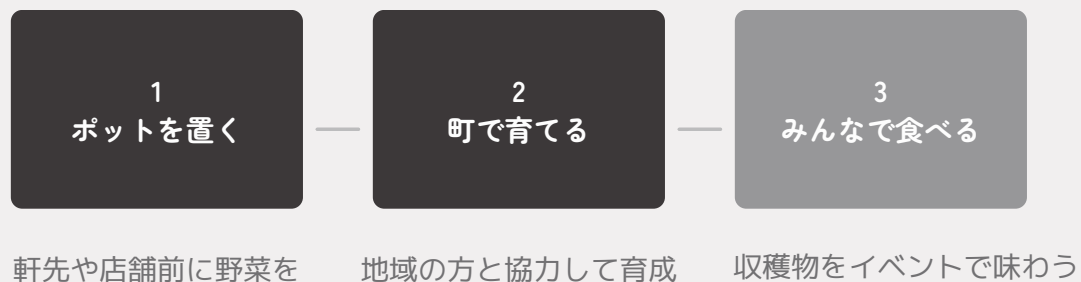




01

エディブルケア活動とは

「地域にある日常的な関わりを、食や植物を通して
少しずつ育てていく取り組み」



02

エディブル + ケア

EDIBLE

植物を育てる。調理する。
そして、一緒に食べる。

CARE

会話や気遣いから、
人とのつながりを生む。

目標 | 浅香山に、顔の見える関係を増やす

EDIBLE CARE 2026 ・ ASAKAYAMA



03

なぜ、活動を行うのか？

地域力低下につながる
“負のスパイラル”

少子高齢化

高齢者・障害のある方が多い
学生と住民の関わりが限定的
商店街の閉店、活気の減少

ともに働くパートナー

NP0法人 kokoima / 堺市社協 堺区事務所
協生農法専門家 森哲也さん
関西大学 村川ゼミ・都市設計研究室

EDIBLE CARE 2026 ・ ASAKAYAMA



04

活動が、浅香山での暮らしの活気に繋がった

132人

2026年度 +29人

飲食店や自治会館も参加し
てくださっています！

「水やりのため、朝起きるように」
「商店街にて野菜の話題での会話が増えた！」
「子供と育てるのが楽しい！今年もポットが欲しい」

2026年度 | 現時点での活動報告

通年

月に一度の定例会議／ポット製作／エディブル巡り

4-7月

畑の整備・種植え
水やり・野菜栽培

7月

子どもたちとピザ作り
浅香山フェス



協生農法とは？

人為的に多種多様な植物を
密生・混生させ、耕さず、
肥料や農薬も使わず、
作物を実らせる露地栽培法



5月 | 森哲也先生によるプレゼン＋ポット栽培相談会

畑から食卓までが、ひとつの学び



協生農法 × 子どもたちとのピザ作り

育てる | 小さな場所から畑をつくる



今年の夏は水やりが・・・

手順

- ・土の運搬作業
「コンクリートの上に」

- ・耕す作業



- ・トマト・バジル・ナス
ジャガイモ・玉ねぎなど



EDIBLE CARE 2026 ・ ASAKAYAMA



収穫 | 問いが芽を出す



子どもたちの疑問



- ・「どう育てたの？」

- ・「なぜ虫さんを取らないの」



自分で選び、自分で収穫する。
体験が、食と植物への興味に変わった。



EDIBLE CARE 2026 ・ ASAKAYAMA

10

調理 | 生地から自分だけのピザをつくる

手順

・生地づくり



・野菜の準備、トッピング



・DIYピザ釜



火は大学生が担当。
手をつなぎ、安全も学びに。



EDIBLE CARE 2026 • ASAKAYAMA

11

11

食事と片付け | 分け合う、支え合う

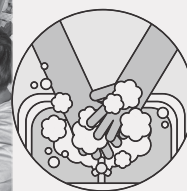
感動的な人場面

『すごくおいしくできたからお兄さん、お姉さんたちにも食べて欲しい』



片付けにも、子どもたちが自ら参加。
“してもらう”から“一緒にする”へ。

ハプニングへの対処



12

EDIBLE CARE 2026 • ASAKAYAMA

12

畑のジャガイモを、地域の一皿へ

約70食

18 / 21人
「とてもおいしい」活動に参加したい

リピーターの姿に、地域のつながりを実感。

EDIBLE CARE 2026 ・ ASAKAYAMA



13

13

スムージー販売 | 育てた葉が活動費に

80杯販売に成功

乳製品あり

乳製品なし

ブルーベリー
ヨーグルト系

パイン・マンゴー系

無料提供から有料販売へ。
売上を、次の活動につなげる。

EDIBLE CARE 2026 ・ ASAKAYAMA



14

参加の入口を、まちのあちこちに

ポット配布 × 広報

スムージー購入者へ活動を紹介。
予約者にポットを手渡し、
新しい参加を後押し。

布切りワークショップ

子どもから大人まで交流。
「また参加したい」の声を、
次回の浅香山フェスへ。



FROM ASAKAYAMA, OUTWARD.

100人を達成し、さらなる繋がりを！

大学生、地域住民、小学生。
世代を超えたつながりが、浅香山のロールモデルになった。
次は、堺市へ！大阪府へ！日本全国へ！

ご清聴ありがとうございました！



各団体の発表

■関西大学 人間健康学部 村川ゼミ②

活 動 テ ー マ	子どもの新しい遊び場
活 動 場 所	堺市堺区（関西大学堺キャンパスおよび浅香山地域）
連 携 先	浅香山校区自治連合協議会、地域住民・保護者
活 動 主 体	関西大学 人間健康学部 村川ゼミ

1. 活動概要

「子どもの新しい遊び場」は、堺市の小学1年生から6年生を対象に、関西大学堺キャンパスの体育館で2017年から継続している地域連携活動です。月1～2回、主に日曜日の午前10時から12時まで実施し、大学生が遊びの企画、準備、当日の進行、安全管理、活動後の振り返りを担います。活動では、大学生1人につき子ども3人までを原則とし、「子どもを一人にしないこと」と、子どもの「やりたい・やりたくない」を尊重することを共通の運営方針としています。

2. 年間計画

年間を通して月1～2回、「子どもの新しい遊び場」を実施します。毎回、活動前に学生が遊びの内容、役割分担、安全面への配慮、参加する子どもについて共有し、活動後にはKPT（Keep・Problem・Try）の観点から振り返ります。子どもの反応や交流の様子、運営上の課題を整理し、年齢や参加人数に応じて遊びのルール、チーム編成、学生の配置を改善します。昨年度の実践では、ボールが苦手な子どもも参加しやすいようにドッジボールをドッジビーに変更したり、低学年と高学年でコートに分けたりするなどの工夫を重ねました。今年度も、遊びに参加しない時間を含めて子どもの意思を尊重し、一人で過ごす子どもが生じない運営を続けます。年度後半には活動の成果と課題、子どもや保護者から寄せられた声を整理し、次年度の担い手づくりと活動の継続につなげます。

3. 活動成果

昨年度（2025年度）は、1回あたりの大学生の平均参加人数が2024年度の8.6人から13.7人へ増え、子どもの平均応募数も16.3人から31.4人へ増加しました。その結果参加学生数が安定したことによって受入枠を広げることができ、一度も抽選を行わず、応募した子ども全員を受け入れることができています。また、継続参加する子どもが見られ、子どもたちからは「次回も参加したい」という声が寄せられました。学生についても、活動後の振り返りを重ねるなかで、子どもの反応を観察して企画を修正する力や、役割を分担して運営する力が育ちました。以上から、活動の認知と参加機会が広がり、子どもの受入体制と学生の運営体制の双方が安定していることが成果です。今後は、この活動をゼミ以外の1、2年生や他大学の学生にも広げていくことが課題です。

4. 地域からの評価

活動中や終了後の会話では、子どもたちから「大学生と一緒に遊べて楽しい」「普段できない遊びができるので、次も参加したい」といった声が寄せられ、継続して参加する子どもも多く見られました。保護者からも、「子どもが楽しそうに遊んでいる姿を見ることができてうれしい」「大学生と一緒に遊んでくれるので安心して参加させられる」との声をいただいています。さらに、2024年12月の浅香山フェスでは、普段の活動を地域に知ってもらうための体験型企画を実施し、想定していた60人を大きく上回る約120人の子どもが参加しました。この機会を通して、地域の子どもや保護者に活動の内容と雰囲気を直接伝えることができ、その後の応募者増加にもつながったと考えています。一方、昨年度は参加者へのアンケートを実施できず、満足度や参加につながった経路を客観的に把握できなかったという課題も残りました。今年度は、活動後の声を記録し、地域からの評価を今後の改善へ結びつける方法も検討します。

5. 参考 WEB サイト

https://www.instagram.com/ninken_asobiba2/

6. 活動メンバー

岸 諒祐、迫川 龍馬、前川瑚香菜、福田 一颯

7. 担当教員

関西大学 教授 村川 治彦

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	関西大学
所属先・職名	人間健康学部 人間健康学科 教授
氏 名	村川 治彦
連絡先	電 話 080-6119-2520
	メー ル murakawa@kansai-u.ac.jp

9. 活動の様子



2026年度堺市と関西大学との地域連携事業

小学生のための **あたらしい あそびの場**

大学生のお兄さん・お姉さんと一緒に思いっきりからだを動かして楽しもう！

場 所 関西大学
堺キャンパス 体育館2Fアリーナ

----- 実施日程 -----

2026年	申込締切
第1回 4月19日(日) 10:00~12:00	4月5日(日)締切
第2回 4月26日(日) 10:00~12:00	4月12日(日)締切
第3回 5月16日(土) 14:00~16:00	5月6日(水・祝)締切
第4回 5月31日(日) 10:00~12:00	5月17日(日)締切
第5回 6月14日(日) 10:00~12:00	5月31日(日)締切
第6回 6月21日(日) 10:00~12:00	6月7日(日)締切
第7回 7月12日(日) 10:00~12:00	6月28日(日)締切
第8回 7月19日(日) 10:00~12:00	7月5日(日)締切
第9回 8月 9日(日) 10:00~12:00	7月26日(日)締切

元気!

対 象 堺市にお住まいの小学生
※未就学児の方のお申し込みはご遠慮ください
※3~5年生は送迎が必要です

持 物 運動できる服装・水筒・タオル
体育館シューズ・着替え

定 員 25名程度
※応募者多数の場合は抽選となります

あそび フリスビー・キンボール・フリンゴ
バレーボール・バスケットボールなど

お申込みはこちらから

お申し込みは、公共交通安全確保のため自転車で行ってください。
自動車の場合は近隣の有料駐車場をご利用ください。

お問い合わせ先
※お電話でのお申し込みは受け付けておりません。
※開会式は別途開催(予定)9:00~17:00
関西大学 堺キャンパス事務局 地域連携担当
〒590-8515 堺市堺区香ヶ丘町1-11-1
E-mail: laboratory@ml.kandai.jp TEL:072-229-5024

ご記入いただいた個人情報、関西大学個人情報保護委員会に引き渡す場合があります。イベントの参加費および大会費の明細書内にも記載あり。これ以外には使用いたしません。

2026年度堺市と関西大学との地域連携事業

小学生のための **あたらしい あそびの場**

大学生のお兄さん・お姉さんと一緒に思いっきりからだを動かして楽しもう！

場 所 関西大学
堺キャンパス 体育館2Fアリーナ

----- 実施日程 -----

開催日	申込締切
第1回 9月26日(土) 14:00~16:00	9月13日(日)締切
第2回 10月 4日(日) 10:00~12:00	9月20日(日)締切
第3回 11月 8日(日) 10:00~12:00	10月25日(日)締切
第4回 11月22日(日) 14:00~16:00	11月8日(日)締切
第5回 12月 6日(日) 10:00~12:00	11月22日(日)締切
第6回 12月19日(土) 14:00~16:00	12月6日(日)締切
第7回 1月17日(日) 10:00~12:00	12月20日(日)締切
第8回 1月23日(土) 10:00~12:00	1月10日(日)締切
第9回 2月14日(日) 10:00~12:00	1月24日(日)締切

元気!

対 象 堺市にお住まいの小学生
※未就学児の方のお申し込みはご遠慮ください
※3~5年生は送迎が必要です

持 物 運動できる服装・水筒・タオル
体育館シューズ・着替え

あそび 新聞ジャンケン、絵しりとり、鬼ごっこ
ドッジボール、ドッチビー、リレーなど

お申込みはこちらから

お問い合わせ先
※お電話でのお申し込みは受け付けておりません。
※開会式は別途開催(予定)9:00~17:00
関西大学 堺キャンパス事務局 地域連携担当
〒590-8515 堺市堺区香ヶ丘町1-11-1 E-mail: laboratory@ml.kandai.jp TEL:072-229-5024

ご記入いただいた個人情報、関西大学個人情報保護委員会に引き渡す場合があります。イベントの参加費および大会費の明細書内にも記載あり。これ以外には使用いたしません。

子どもの新しい遊び場

関西大学 人間健康学部人間健康学科 村川ゼミ
前川瑚香菜 岸諒佑 迫川龍馬 福田一颯

活動概要

- ・活動テーマ : 子どもの新しい遊び場
- ・活動場所 : 関西大学堺キャンパスアリーナ
および浅香山地域
- ・連携先 : 浅香山区自治連合協議会、地域住民、保護者
- ・活動主体 : 関西大学 人間健康学部 村川ゼミ

活動概要

- ・対象：堺市の小学1年生～小学6年生
- ・実施日程：月1～2回. 主に日曜日の午前10時～12時
- ・運営：大学生が企画. 準備. 進行. 安全管理. 振り返りを行う
- ・運営方針：原則、大学生1人につき子ども3人まで
「子供を1人にしないこと」
子どもの「やりたい・やりたくない」を尊重すること

年間計画

〈2017年〉

堺キャンパスでの活動開始

〈2023年～2025年〉

八尾市での活動

〈2026年～〉

堺に拠点を戻し、

大阪経済法科大学と連携した取組



年間計画

KPTの実施

K (keep)
P (problem)
T (try)

振り返りを必ず行い、
次回の遊び場の運営に
つなげます。



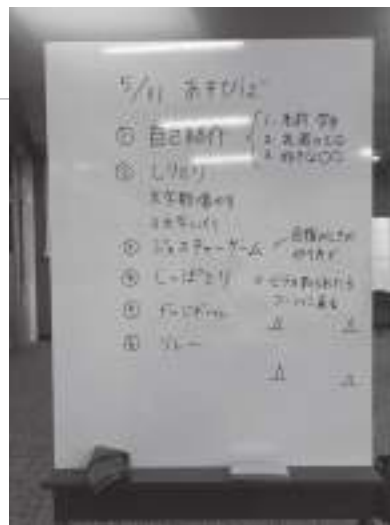
八尾市での活動

活動の場を広げ、自立化に向かうことを目標に活動



活動の流れ

- ①集合・注意事項の説明とチーム発表
- ②自己紹介・アイスブレイク
- ③あそび
- ④終了・自由時間



参加してもらうために

シール台帳を配布し、
遊び場終了後に1枚シールを
貼ってもらう
3枚集めるとお菓子のプレゼント



活動の様子



活動の様子



活動内容

〈実践において〉

- ・運営上の課題や情報をもとに、年齢や参加人数に応じて
遊びのルール・チーム編成・学年の配置を改善

〈実践例〉

- ・ボールが苦手な子ども → ドッジボールをドッジビーに変更
- ・低学年と高学年でコートに分ける
- ・時間があれば、余った時間で子どもが提案した遊びを行う

活動成果

〈浅香山フェス〉

2024年12月 活動を地域の方々に知ってもらうため、
体験型企画を実施し、約120名の子どもが参加

〈大阪経済法科大学との連携〉

八尾市での活動を引き継ぎ、輪を広げるため、
今年度は大阪経済法科大学の学生と堺で共に活動

活動成果

〈新しい試み〉

軽度の自閉症を持つ子どもの参加

保護者とコミュニケーションを取り、ニーズにどのようなアプローチ
ができるか

子どもに対してどのような関わり方ができるのか

活動成果(2024～2025)

1回あたりの大学生の平均参加人数

8.6人



13.7人

子どもの平均応募数

16.3人



31.4人

子どもの人数も確保するため
友達紹介キャンペーンも
実施予定



- ・学生参加人数の安定化を図る。
- ・子どもが小学1年生から6年生まで幅広く参加し、楽しんでもらえる場所づくり
- ・大阪経済法科大学と連携を続け、遊び場の活動を自立化させていくとともに他のゼミの1、2年生や他大学の学生にも広げていく
- ・参加者へのアンケートを実施し、満足度や参加に繋がった経路を客観的に把握する

ご清聴ありがとうございました

各団体の発表

■関西大学 人間健康学部 村川ゼミ③

活 動 テ ー マ	日本語学校の生徒へ日常に近い日本語会話の提供
活 動 場 所	関西大学 堺キャンパスなど
連 携 先	大阪日本語学院
活 動 主 体	関西大学 人間健康学部 村川ゼミ

1. 活動概要

日本への留学には、大学や専門学校などへの進学を目的とする方がいる一方、日本語学校という環境で日本語を学びながら生活している方も多くいます。しかし、日本語学校で学ぶ日本語は進学や就職を前提とした内容が中心となることも多く、日常生活の中で日本人と交流する機会が十分でない場合があります。そこで私たちは、単に日本語を学ぶだけではなく、日常生活で実際に使う日本語や日本の文化・習慣に触れることができる交流の場を作っています。活動を通して、外国人の方々が日本人とのコミュニケーションに慣れ、日本での生活をより身近に感じられることを目指しています。また、私たち自身も交流を通して異なる文化や価値観を知り、互いに理解を深めることを大切にしています。

2. 年間計画

年間計画

- 4月：大阪日本語学院と連携を開始。第1回国際交流会を開催し、悩み相談などを通して交流のきっかけをつくる。
- 5月：第2回国際交流会を開催。レクリエーションを中心に、誰もが楽しめる交流を行う。
大阪日本語学院と国際運動会を開催し、100名以上が参加。
今後の活動について話し合い、浅香山フェスへの参加などを決定。
- 6月：第3回国際交流会を開催。卓球やモルックを通して、参加者同士の交流を深める。
- 7月：浅香山フェスに参加し、屋台やダンス、伝統衣装体験などを通して地域住民との多文化交流を実施。第4回国際交流会では、たこ焼きパーティーとスポーツ交流を行う。
- 8月：これまでの活動を振り返り、今後の活動内容や日本語学校の学生が主体となる企画について検討する。
- 9月：日本語学校の学生に企画を考えてもらい、日本人学生が参加する交流活動を実施予定。
- 10月：秋の国際運動会を開催予定。これまでの交流をさらに広げ、参加者同士のつながりを深める。
- 11月以降：日本語学校・大学・地域とのつながりを継続し、参加者が主体となって活動をつくる国際交流の場を広げていく。

3. 活動成果

「日本語レベルの差は交流の壁になる」という課題に対し、遊びを通じて日本語力の差を越えた交流を生み出すことができた。月1回の遊びイベントを企画・継続し、毎回約15人が参加する中で、当初は緊張していた日本語学校の学生も、回を重ねるごとに日本人学生との会話が増え、「言葉がなくても楽しめた」という声も聞かれるようになった。また、参加者の表情や反応を観察しながら活動内容や関わり方を工夫することで、参加者同士の交流を促す力も身についた。さらに、交流する側・される側という一方向の関係を超え、参加者自身が主体となって共に活動をつくることの重要性を学んだ。浅香山フェスでは約40人が参加し、大学内で行ってきた活動を地域へ発信する機会となった。今後は日本語学校の学生にも企画・運営に携わってもらい、日本人学生と日本語学校の学生が主体的に関わり合い、共に活動をつくる場へと発展させていきたい。

4. 地域からの評価

キャンパス祭や浅香山フェスでは、私たちの活動について地域の方々に紹介する機会を設けました。活動内容や、日本語学校に通う外国人の方々との交流を通して、日本人との接点や日常的な日本語を学ぶ機会を提供していることを説明したところ、多くの方から関心を持っていただきました。「外国人の方が日本で生活するためには、こうした交流の機会が大切だと思う」「大学生だからこそできる活動で、とても良い取り組みだと思う」といった声をいただき、活動の意義について理解していただくことができました。また、「地域の中でもこうした交流の機会がもっと増えてほしい」という意見もあり、外国人の方々と地域住民が交流する場の必要性を改めて感じました。地域の方々から直接いただいた意見を通して、私たちの活動が外国人の方だけでなく、地域社会にとっても意義のある取り組みであることを実感しました。今後もつながりを大切に活動が続けていきたいです。

5. 参考 WEB サイト

--

6. 活動メンバー

人間健康学部 4 年 伯井 慶、山本 倅史郎、森井 健心

7. 担当教員

人間健康学部 教授 村川 治彦

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	関西大学
所属先・職名	人間健康学部 人間健康学科 4 年
氏 名	森井 健心
連絡先	電 話 090-9870-9129
	メー ル gkin1314@gmail.com

9. 活動の様子



いつものコミュニティから一歩外へ

—多文化交流から広がる、新たなつながり—

関西大学 村川ゼミ
森井 健心
伯井 慶
山本 倅史郎
ハー・チャン

目次

- ・活動の背景、目的
- ・活動を通して目指すこと
- ・年間計画
- ・これまでの活動
- ・活動成果
- ・地域からの評価
- ・今後の展望、まとめ

9/9/2026

2

なぜこの活動を 始めたのか？

日本に来た留学生が

「日本語を学ぶ」だけでなく、
「日本人、地域の方々と実際に
交流する」機会を提供する。



私たちが目指す交流

交流を通して、お互いを知る

コミュニケーション

日本語文化・習慣

相互理解

「交流する側、される側」ではなく、
一緒に交流の場をつくる関係へ

2026年度 活動の流れ

4月 大阪日本語学院を訪問、
連携開始

5月 第一回交流会を実施
国際運動会に参加

6月 第二回交流会を実施
学内のキャンパス祭で
活動の紹介



7月 浅香山フェスにて共同出店

8月 第三回交流会
大和川祭り

9月 日本語学院の生徒が主体
となり交流会運営

10月 第5回交流会（予定）

11月 私たち主催の秋の
国際運動会（予定）



4月 大阪日本語学院を訪問



5月 第一回交流会を実施
国際運動会に参加





6月 第二回交流会を実施
学内のキャンパス祭で活動の紹介



7月 浅香山フェスにて共同出店



8月 第三回交流会



8月 大和川祭り

活動を通して生まれた日本語学生交流の変化

BEFORE

「日本語レベルの差」



「交流の壁」

- ・初めは緊張
- ・会話が少ない

AFTER

「遊び」



「自然な会話」

- ・会話が增えた
- ・言葉がなくても楽しめた

地域からも広がる多文化交流

地域の方から
いただいた声

地域の中にも、こうし
た交流の機会がもっと
増えてほしい



外国人にとって、交流の
機会が大切

これから目指す交流のカタチ

「参加する」から「一緒に作る」へ

日本人学生



日本語学校の生徒



地域住民

今後は、

- ・日本語学校の生徒の学生が企画・運営に参加
- ・日本人学生と一緒に活動を作る
- ・大学・日本語学校・地域のつながりを広げる



ご清聴ありがとうございました！

各団体の発表

■近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 地域デザイン研究室

活 動 テー マ	古民家宿「ことうみ亭」の中庭空間デザインを通じた地域づくり
活 動 場 所	兵庫県洲本市竹原集落
連 携 先	洲本市役所、竹原町内会、古民家宿「ことうみ亭」
活 動 主 体	近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 地域デザイン研究室

1. 活動概要

淡路島の南東部に位置する竹原集落において、地域おこし協力隊 OB の移住者が開業した古民家宿「ことうみ亭」の中庭空間の設計施行を学生主体で進めている。目指すべき空間像に際しては、単なるリニューアルでは無く、1) ことうみ亭及び竹原集落のコンテキストを丁寧に読み取ることを前提に、2) 意匠や構造、マテリアル等にその文脈を活かすこと、3) 関係人口の誘致と活用、防災等の多面的な機能を含めたソフトウェアとしての存在意義を組み込むこと、4) 竣工＝終わりではなく、その運用や維持管理、地域内外の人間の関わりの結節点となっていく等を見通した多義的な「持続可能な中庭」であること、等を根底に置く広義のデザインを目指すプロジェクトである。併せて本プロジェクトは「建築学科では無い学生たちが建築に向き合う」試みでもあり、空間設計手法やコンセプトワークにおける、ある種の開放系の技術論／方法論の模索も企図している。

2. 年間計画

(～8月：現地調査及び事例調査、空間像とプログラムに関するスタディ、模型制作、等)
8月後半～10月：空間像及びコンセプトの確定、施工方法の検討
11月～2月：現場施工（施工そのものをイベント化して多くの関係人口を巻き込むことを検討）
3月：竣工記念イベント

3. 活動成果

ここまでの取り組みでは、現地調査（「ことうみ亭」及び竹原集落の概要や略歴に関するヒアリング調査、敷地の実測や植生調査）や施工のトライアル（土壁の試し塗りや経年劣化のスタディ）、模型制作（1/2,000集落模型、1/10敷地模型）及びAI画像等による空間像の構想と共有を進めてきた。前述「2. 年間計画」の通り、現時点では竣工には至っていないが、学生有志一同が建築や空間に関する基礎的教養を蓄積しながら、概ねの設計方針やコンセプトが固まりつつある。

4. 地域からの評価

竹原集落は過疎化の進む小規模集落であるが、かねてより積極的な地域づくりを進めており、住民のモチベーションも高い。そうした中で当該プロジェクトは地域拠点でもある「ことうみ亭」の象徴となる空間をデザインするものであり、地元の注目や期待を集めている。

クライアントである「ことうみ亭」宿主は若手の移住者であり、カジュアルな関係でディスカッションを重ねながらも、学生チームの斬新な発想や作業量を高く評価している。住民の方々からも孫のように可愛がられながら、現地を訪れる度に交流を重ね、公私の区別無い関係を構築している。

5. 参考 WEB サイト

兵庫県洲本市竹原集落 (<https://tikusatakehara.com>)

6. 活動メンバー

近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 地域デザイン研究室
学部4年 丹羽 健瑠
学部3年 中西 雄大、川嶋のり子、横田 葵、岡田 天千

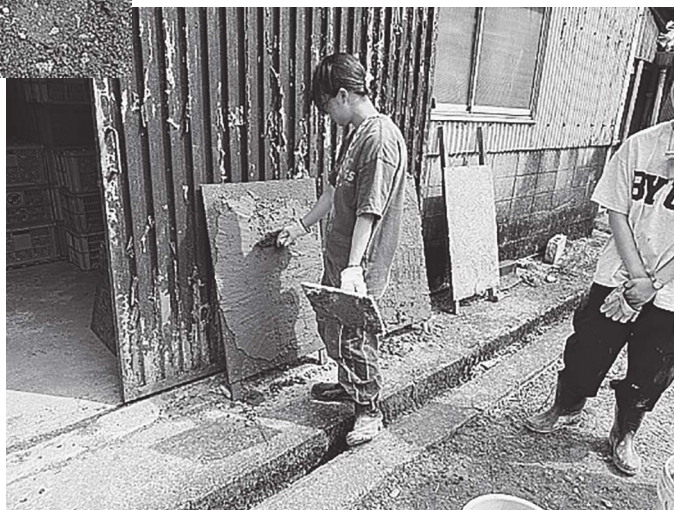
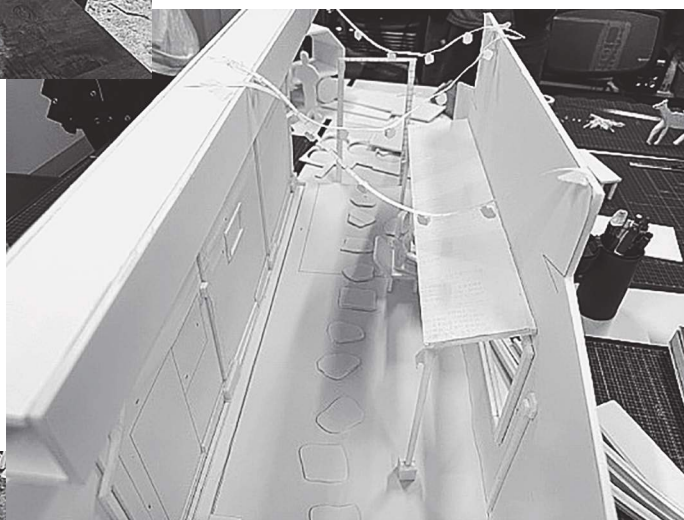
7. 担当教員

近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 講師 野田 満

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	近畿大学
所属先・職名	近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 講師
氏 名	野田 満
連絡先	電 話 06-6721-2332 (内線3242)
	メー ル m_noda@socio.kindai.ac.jp

9. 活動の様子



洲本市竹原集落 ことうみ亭中庭設計 PJ

— 非建築学生による建築設計・施工のプロセスと手法 —

近畿大学 地域デザイン研究室
ことうみ亭中庭設計プロジェクトチーム
丹羽 岡田 横田 川嶋 中西

1

プロジェクト概要

- 1 プロジェクト概要
- 2 活動内容
- 3 設計プロセス



ことうみ亭
kotoumitei

ことうみ亭



兵庫県洲本市千草竹原地区

「国生み神話」の淡路島において、なにもない場所から
「体験・起業・言葉(コト)」が生まれる宿(亭)としての命名

中庭空間の課題

- ・民泊としての「売り」となる象徴的な景色や視界の抜けがない
- ・プライベート(宿泊領域)とパブリック(地域・オーナー領域)の境界が曖昧
- ・鑑賞するための庭ではなく、人が実際に留まり活動できる空間が必要

→ことうみ亭中庭プロジェクト始動



ことうみ亭中庭設計コンセプト

1)地の土・竹を用いたマテリアルデザイン

かつて竹原で用いられてきた土や竹といった地域素材を取り入れ、土地の記憶を継承する空間とする。

2)持続性を支える仕組みづくり

空間の完成度だけでなく時間的な価値に着目し、
更新や手入れを前提とした持続可能な維持の仕組みを構築する。

3)関係人口による空間への関与

多くの大学生が関わってきた背景を踏まえ、設計や運営への関与を空間に反映し、
継続的な関わりを促す。

4)有事における防災拠点機能の確保

災害時に集落が孤立する可能性を踏まえ、ことうみ亭が防災拠点として機能する空間構成とする。

2

活動内容

- 1 プロジェクト概要
- 2 活動内容
- 3 設計プロセス

25 10/10 キックオフ MT (ONLINE)

- ・基本設計の進め方とコンセプトの方向性の整理、ことうみ亭の価値づけを踏まえた空間づくりの議論



25 10/17 ことうみ亭初回測定

- ・現地に赴いての実測



25 12/15 模型作成

- ・ラボでの模型作成



25 12/23 ことうみ亭模型 + ヒアリング

- ・現地での模型作成



26 2/3 近畿大学研究室訪問

- ・施主さんを大学に招いての打合せ、物質や防災を中心とした中庭提案書作成



26 2/18 竹伐採

- ・竹について触れ、学ぶ



26 2/19 近畿壁材土のミュージアム視察

- ・土について触れ、学ぶ



26 2/27 オンラインMT

- ・コンセプト説明



26 3/17 単管パイプワーク

- ・単管に触れ、学ぶ



26 4/11 近畿壁材質問回答打ち合わせ

- ・近畿壁材さんへの質問への回答や土の調達場所について、捏ね場の水、電気確保について、施工方法やデザイン案についての打合せ



26 5/19 ラボMT (B3空間スタディ)

中庭構成要素、景観、空間の定義

26 5/30 竹原現地ワーク(近畿壁材レクチャー)



26 5/26 ラボMT (続・B3空間スタディ)

黄金比、造園、戦後の中庭機能、ダーチャ

26 6/20-21 とうみ亭出張

26 6/9 ラボMT (続々・B3空間スタディ)

ニフレルの工夫、カフェの中庭、造園の工夫



26 7/7 ラボMT (模型作成)

26 6/16 ラボMT (続々々・B3空間スタディ)

パブリックスペース、外構と中庭の役割



現在の活動

①外部に接続する空間

「入り口の空間」として、外部との連続性や境界を意識する空間にする

②中庭中央部の空間

「交流の空間」として、施主さんと宿泊者が交流できるように、人が向かい合って滞在できるような空間にする

③最も奥まった空間

「神聖な空間」として、落ち着きや静けさを持つ空間にする



模型と試作づくり

中央部分の方針を「縁側」に決定し、20通りの形状案の発散・統合を経て1/10スケールの検討用スタディ模型を製作

現地にて、1/1スケールで試作品を作成し実際の素材感・寸法(幅・高さ・脚の構造)を肌で体感しながら検証

中庭から奥の庭へ抜ける動線や、通行の邪魔にならない寸法かを現地で確認



今後の活動

アイデアの発散→要素分解→評価・分析→抽出・統合→模型や試作品で検証→デザインに取り入れる

設計のプロセスにおいてこのサイクルは継続しつつ、再度設計コンセプトとの乖離がないかを確認しながら、デザインしていく

年度内竣工

3

設計プロセス

- 1 プロジェクト概要
- 2 活動内容
- 3 設計プロセス

非建築学生による設計

感覚による直感的な「良さ」に頼るのではなく、コンセプトや施主さんの意向を評価・分析し、それを言語化しながら「論理的な設計」を目指す

そのために、生成AIを活用している

→設計そのものを委ねるのではなく、言語化したものを可視化させるためのツールとして使用

100案の生成 | 生成AIを用いた空間デザインの可視化

2025年度に設定したコンセプトを基に、それを反映させた画像を生成AIを用いて100案作成

あらゆる可能性を含めた案を提示

頭の中で考えたことをビジュアルとして可視化させることで、アイデアを発散し選択肢を増やす



図： Geminiを用いた生成画像

分類分けして施主さんに示す

100案を分類する要素を考え、要素分解ツリーによって、最終的に「機能的／象徴的」「通路的／集合的」「自然／人工」「実現可能性(高／低)」の要素に分類し整理

施主さんが選択した画像にはどんな要素が含まれている傾向があるのかを分析

→感覚的な「好き・嫌い」を客観的・構造的な「要素」として分析・言語化



実際に現地を訪れ、これまで出た案を検証

施主の要望の把握

「人が集まり、自然と会話が生まれる空間にしたい」という施主の希望をヒアリングから抽出
庭の中心に“人が滞在できる場”を設ける必要性を設定

縁側の配置・規模の検討

模型を用いて縁側の規模感・配置・周囲との関係性を検討

実寸大の仮設による検証

現地で調達できる資材を用いて実寸大の縁側を仮設として制作・設置
縁側の高さ・導線・座ったときの視点・視線の集まり方を体験的に評価
「話しやすい空間」として成立するかを現地環境下で検証し、設計に反映

各団体の発表

■摂南大学開学50周年記念事業「摂南アグロボタニカルプロジェクト」

活 動 テ ー マ	大学オリジナル薬膳メニューの開発
活 動 場 所	大阪府枚方市
連 携 先	尾鷲保健所、伊勢くすり本舗、なつめ薬局、ミールファーム
活 動 主 体	摂南大学開学50周年記念事業「摂南アグロボタニカルプロジェクト」

1. 活動概要

地域の企業と共同して、大学オリジナルの薬膳メニューを開発する学生主体のプロジェクト。2025年度は、摂南大学薬学部附属薬用植物園で収穫したウコンと農学部附属農場で収穫したナガイモを使ったナガイモ男爵プリンと、薬用植物園で収穫したサンザシを使ったサンザシ姫ゼリーを開発。2026年度は販路拡大が課題。

2. 年間計画

2025年 8 月：伊勢志摩合宿を実施し連携先を訪問
2025年 9 月：各地の薬膳を食べ比べて味を分析
2025年10月：自分たちで食材やスパイスを使って数種類のレシピを試作
2025年11月：試作したレシピを第三者に試食してもらいフィードバックを得る
2025年12月：レシピを一つに絞る
2026年 1 月：製造元に試作品を依頼
2026年 3 月：試作品を試食、レシピを微調整
2026年 6 月：摂南ベジ薬膳メニュー販売開始
2026年11月：賞味期限のため活動終了

3. 活動成果

2025年 8 月に伊勢志摩合宿を実施し、尾鷲保健所で薬剤師から食品衛生や食品表示について、なつめ薬局で管理栄養士からレシピ開発について、それぞれ研修を受けた。また、おかげ横丁を散策しながら地域の特産品について調査を行った。今後は、賞味期限までにすべてを販売する方略を練る。

4. 地域からの評価

2024年度の活動では、地域の薬剤師との触れ合いはあったが、大学の収穫物を使って、学内限定で販売したため、地域への貢献は限定的であった。2025年度は、地域の魅力を大阪都市圏で広めることを意識して、伊勢志摩や尾鷲の特産品を使ったレシピを予定しているため、地域からの評価が期待できる。

5. 参考 WEB サイト

https://www.setsunan.ac.jp/~p-yakuso/abx_index

6. 活動メンバー

農学部 3年 24E025 楠 菜奈、24F067 南 結子、24F066 光川 奈穂、
24F046 辻村 実紗、24C057 星野 美咲希 他20名

7. 担当教員

摂南大学 薬学部 准教授 伊藤 優

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	摂南大学
所属先・職名	薬学部 准教授
氏 名	伊藤 優
連絡先	電 話 072-866-3145
	メー ル yu.ito@pharm.setsunan.ac.jp

9. 活動の様子



摂南ベジ薬膳プロジェクト

～摂南アグロボタニカルPJ～

プロジェクト始動のきっかけ

薬用植物園（薬学部）

- ・薬用、有用植物が取れる
- ・多種多様なハーブ&スパイス

農学部附属農場（農学部）

- ・大阪府唯一の農学部附属農場
- ・主要な農作物が収穫できる



薬草園×農場で“摂南オリジナル商品”が作れるのでは!?

プロジェクトの目的

大学のブランディング
薬草園と農場の魅力を発信
大学の活動を知ってもらう

実践的教育
講義で学んだことを活かす

地域貢献
商品販売を通じて地域に貢献する
地域とのつながりを生み出す

薬学部伊藤准教授がプロジェクトを立案



薬学部×農学部
・農学部生21人で活動
・薬用植物園と農場で協力

大学×教員
・教員発のプロジェクト
・教員と学生が連携

大学×地域
・地域の薬局や保健所の見学
・地域の企業と商品開発

商品考案会議にて

スイーツを作りたい

メッセージ性のあるもの

摂南産の食材を使いたい

農学部と薬学部らしさが欲しい



摂南の食材を使った**薬膳**スイーツを作ろう！

薬膳とは？

体調

季節

「薬膳 = 食で心身を整える」

食材

体質



体調や季節に合わせた食材で、健康を整える食文化

奈良、三重県で
薬膳の調査を開始



試食会とアンケート
調査を実施



オリジナル薬膳レシピ考案会議

地域の企業と共同で商品開発



地域の食品加工企業を訪問



摂南ベジ薬膳の
ゼリーとプリン完成!

サンザシ姫ゼリー



- ・薬用植物園のサンザシを使用
- ・甘酸っぱいサンザシの果実感！
- ・保存料、香料、着色料なし！

サンザシは消化促進と血流改善
美容効果が知られる生薬

ナガイモ男爵プリン



- ・摂大のナガイモとウコンを使用
- ・ふわとろ食感とほろ苦い味が特徴
- ・保存料、香料、着色料なし！

ナガイモは疲労回復、消化不良改善
ウコンは肝機能強化で知られる生薬



株式会社 ミールファーム

- ・大阪府和泉市に所在
- ・食品製造、販売を取り扱う企業



作業に参加した生徒の感想

- ・初めて使う機械ばかりで貴重な経験が出来た
- ・ゼリーを固める調整が難しかった
- ・商品が形になっていく過程を体験できた



課 題

多くの人に商品を届けるにはどうすればよいか？



販売場所の確保

- ・学内イベントへの出店
- ・学内販売の検討

販売方法の検討

- ・売り場を工夫
- ・持ち帰りバックの検討

認知度向上

- ・学内広報誌に掲載
- ・学外への発信活動



薬膳ゼリーとプリンの販売の様子



さらなる販売拡大を目指す

- ・「J:COMジモトトピックス」にて取り組みを紹介
- ・学内広報誌にて記事の掲載

課題解決にむけてメンバーで検討中

今後の販売予定日

- ・11月1日日曜日 摂友祭
- ・11月2日月曜日 摂大祭
- ・11月3日火曜日 摂大祭
- ・11月14日土曜日 秋の薬草見学会

ご協力いただいた方々

- ・大願寺
- ・三重県尾鷲保健所
- ・なつめ薬局
- ・伊勢くすり本舗
- ・株式会社
ミールファーム



ご清聴ありがとうございました！

各団体の発表

■阪南大学ファッションサークル

活 動 テー マ	大学とショッピングモールをつなぐファッションプロジェクト
活 動 場 所	大阪府松原市
連 携 先	(株)クリエイトリック（セブンパーク天美）、(株)良品計画（無印良品）、 (株)adaptretailing (coca)、ジーイエット株式会社（Mac-House）、 菅田(株)（ジュエリーKANDA）
活 動 主 体	阪南大学ファッションサークル

1. 活動概要

阪南大学とショッピングモール「セブンパーク天美」は近接しており、産学連携協定を締結しています。その連携の一環として、経営学部平山ゼミでは2022年から毎年、セブンパーク天美の専門店と連携したファッションショー（以下FS）を実施してきました。FSでは、専門店から無償で提供いただいた衣装を学生が着用し、ファッションモデルとしてランウェイを歩く取り組みです。学生は、各ブランドの特長や今シーズンの訴求ポイントを調査し、独自のコーディネートを通じて、ブランドの世界観や魅力を来場者に伝えてきました。

今年度は、ゼミ活動の枠を超えだれでも参加できる「ファッションサークル」を昨年度参加した学生が中心となって立ち上げました。今後は、FSを中心に、大学やセブンパーク天美でのマネキン等を活用したヴィジュアル・プレゼンテーション、ブランド紹介冊子の制作など、学生の自由な発想で、大学とセブンパーク天美をつなぐ取り組みを進めていきます。

2. 年間計画

4月：セブンパーク天美の運営会社である(株)クリエイトリックとの進め方を協議
 5月：セブンパーク天美店長会において、事業説明及び参加専門店を募集
 6月：専門店との打合せ、全体プランの作成
 7月～8月：ファッションショーのトライアル実施
 9月：専門店にブランドについてのヒアリング、衣装等の打合せ
 10月：セブンパーク天美でイベント告知を目的としたヴィジュアル・プレゼンテーション展示
 11月：セブンパーク天美でファッションショー開催（11/1、2ステージ）
 学生がコーディネートしたヴィジュアル・プレゼンテーション展示
 12月～2月：阪南大学本キャンパス、セブンパーク天美でファッションショーフライヤーを配布

3. 活動成果

2022年から毎年開催しているファッションショーは、セブンパーク天美の運営会社である株式会社クリエイトリックの全面的な協力のもと、専門店である無印良品、coca、Mac-House、ジュエリーKANDAに参加いただき、大学とショッピングモールが連携したファッションショーを継続的に実施してきた。学内的にも毎回留学生がモデルとして参加しており、昨年は大学院生（中国出身）、学部学生（ミャンマー出身）がランウェイを颯爽と歩き、卒業生モデルも登場するなど、ファッションショーの国際化と多様化が進んでおり、ファッションの阪南大学としてのイメージ向上に貢献している。

また、セブンパーク天美との5年間にわたる連携を通じて、学生証の提示により43店舗で割引を受けられる「阪南大学生割引制度」や、地域を巻き込んだ本学大学祭のサテライト会場としても活用させていただき、大学と大型商業施設の結びつきが、地域と連携する場にもなり、学生の実践的な学びの機会を創出するとともに、地域活性化にも寄与している。

4. 地域からの評価

(株)クリエイトリック担当者様（セブンパーク天美を運営）

当社が運営する施設セブンパーク天美の催事スペース AMAMISTADIUM にてテナント事業者の商品を用いた学生をモデルとするファッションショーについては、2022年度より昨年度まで計4回にわたり開催いただいております。施設のにぎわい創出や本施設専門店のイメージ向上に大きく貢献しており、特に、学生が主体的にイベントを運営するスタイルは非常に斬新で、若い感性を活かし地域に開かれた取組みとして、来場者や地域の皆さまからも高い評価をいただいております。

また、地域の学生が商業施設を舞台に活動し、テナント事業者や来場者と接点を持つことは、地域における学びと交流の機会を創出するものであり、本施設が地域社会とともに歩む場であることを示す重要な取組みであると考えております。当社といたしましても、本イベントを産学連携による地域活性化の代表的な成果の一つとして認識しております。

5. 参考 WEB サイト

2022年度 <https://www.hannan-u.ac.jp/lifelong/2022/n5fenj000005fqe1.html>
2023年度 <https://www.hannan-u.ac.jp/lifelong/cef2l5000008v5vp.html>
2024年度 <https://www.hannan-u.ac.jp/lifelong/llinfi00000nupmq.html>
2025年度 <https://www.hannan-u.ac.jp/lifelong/2025/llinfi00000ypomj.html>

6. 活動メンバー

流通学部4年	福田	はるな、秋山	那優、橋本	優星
経営学部3年	一木	ほのか、石田	桜空、庵地	瞳翼、春藤 美葉
国際学部2年	森本	華梨、古久保	麗、吉井	莉緒、川本 歌楽
経営学部2年	木村	瑳佑、金城	晴	
経済学部2年	寺本	光騎		
国際学部1年	白神	陽向、村上	隼雄真、三沢	祥平、田丸 雄大
経済学部1年	小田	彪牙		

7. 担当教員

経営学部 教授 平山 弘

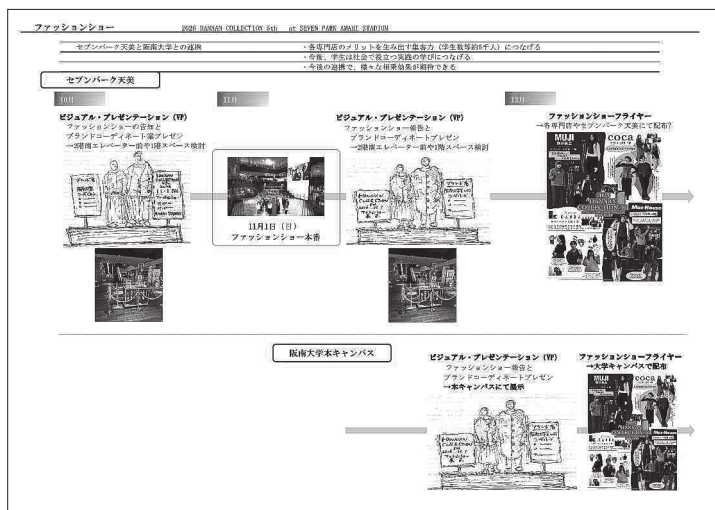
8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	阪南大学
所属先・職名	研究部 社会連携課
氏 名	太田 光昭
連絡先	電 話 072-335-7674
	メー ル m-ota@hannan-u.ac.jp

9. 活動の様子



セブンパーク天美でのファッションショー

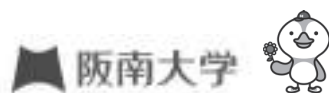


全体プラン



ファッションショー終了後のフライヤー

大学とショッピングモールを つなぐファッションプロジェクト



実践的な語学力と国際感覚を身につける

現場で学ぶ観光学を実践する



経済社会を基盤とする専門性を培う

経営学を軸とした専門知識を修得する



最先端の国際通信技術を知る

高度情報化社会に対応する多様な専門力を築く



SEVEN PARK
AMAMI

セブンパーク天美
約160近くの専門店が集まる大型商業施設

LIVE STADIUM

普段の暮らしに、感動・興奮・楽しさを

「感動・興奮・楽しさ」を追求し、最新の設備・最新の技術・最新のデザインで、最新の生活を創造します。最新の設備・最新の技術・最新のデザインで、最新の生活を創造します。最新の設備・最新の技術・最新のデザインで、最新の生活を創造します。

<会場>



[AMAMI STADIUM]



[AMAMI STADIUM]



[平野町駅]



[Sora Park]



[Ennichi Park]



[Noki Park]



出所：セブンパーク天美HP

セブンパーク天美との産学連携協定



セブンパーク天美 徒歩約12分

阪南大学



阪南大学と株式会社セブン&アイ・クリエイトリック（現・株式会社クリエイトリック）との産学連携協力に関する協定締結（2022年1月）

協定締結式の様子は、セブンパーク天美のホームページに掲載しました。



協定締結式の様子は、セブンパーク天美のホームページに掲載しました。

活動概要

地域連携の一環として、経営学部平山ゼミでは2022年から毎年、セブンパーク天美の専門店と連携したファッションショーを実施。

学生は、各ブランドの特長や今シーズンの訴求ポイントを調査し、独自のコーディネートを通じて、ブランドの世界観や魅力を来場者に伝える。

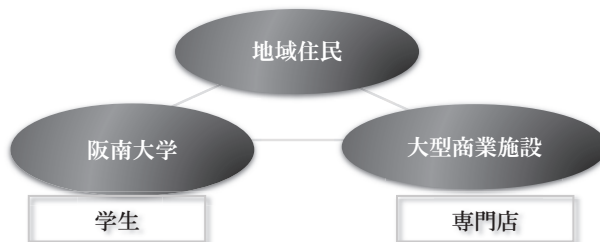


2022



2024

ファッションショーでは、専門店から無償で提供いただいた衣装を学生が着用し、ファッションモデルとしてランウェイを歩く取組み。



ファッションを通じて、
大学と大型商業施設、地域住民を
つなぐ取組み



2023



2025

process

01

店舗見学

02

各ブランドのコンセプトや特長の調査

03

専門店様との衣装打合せとコーディネートの決定

04

ウォーキング練習・ポージングの決定

05

全員での通しでの練習

06

専門店様衣装預かり(前日)

07

会場設営と前日練習

1. 店舗見学

2. 各ブランドのコンセプトや特長の調査

3. 専門店様との衣装打合せとコーディネート決定



Brand Attributes

「これがいい」ではなく「これでいい」

感じよい暮らしと社会

わけあって、安い。

Season 「MUJI」



Brand Attributes

Concept

「暮らしに役立つ商品と企業活動を通じて地域社会に貢献する」

Image

カジュアルウェア、10代・20代
マテリアル・スウェーデン・スウェーデン



Season 「coca」



「高品質な素材とデザインを追求する」

「高品質な素材とデザインを追求する」



4. ウォーキング練習・ポージングの決定

5. 全員での通しでの練習

6. 専門店様衣装預かり(前日)

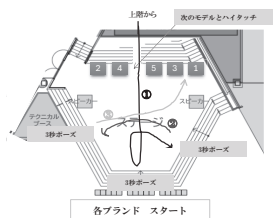
7. 会場設営と前日練習



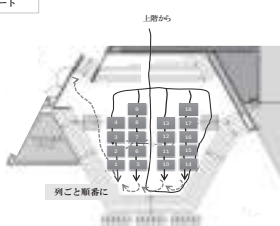
ファッションショー 当日資料



11月3日（祝・月）9時集合
無印良品前（屋外）

[illegible][illegible]

(一) 總體情況

[illegible]

エンディング (全巻)

[illegible]

ファッションショー



2026年度 新たな取組み

2026年度は、ゼミ活動の枠を超えだでも参加できる「ファッションサークル」を昨年度参加した学生が 中心となって立上げ。



水曜ミーティング



新入生勧誘



ファッション美術館見学

Fashion club

ファッションサークル

2026年度ファッションサークル始動/
新規募集/初期メンバーになりませんか?

セブンパーク美濃のテナント様より提供いただいたファッションアイテムを、
スタイリング・撮影・モデル・広報士で、幅広く経験できちゃう☆
他にも、芸術館見学研修、香水作りなどを予定中/
学部・性別問わず、友達との参加も、もちろんOK/
トータルファッションを楽しく学べます♪

活動日:毎週水曜日3or4期
部員数:14名(2026年2月現在)
部費:無料

入部はこちらから!

お問い合わせ先:090-4777-1111
Eメール:info@fashionclub.jp

ファッションサークル2026

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
セブン パーク天美 ファッ ション ショー	全体コンセプトづくり 計画づくり	今年のテーマ コンセプト ターゲット新規										
	専門店関係		前回店舗挨拶、ス ケジュール説明？ 5/20 13:00～ 店長会説明		① メンバー(、 、) 時期 5/7～19の間 4店舗店長調整 内容 サークル設立、VP、広報							
	VPイベント				事前に専門店に依頼			↔ 実施		↔ セブンパーク天美要望		
	広報											
	ファッションショー (当日)								11月1日			
	大学でのVPイベント								↔			
	協力店にフライヤー										↔	
事務	新入生勧誘	済	適宜									
	ミーティング 水曜日 (3限or4限)			アマフェス会議参加								
	見学会 (神戸ファッション美術 館) 13時～15時		② 5/8(金)まで人数確定 美術館に予約を入れる予定									

セブンパーク天美

10月

ビジュアル・プレゼンテーション (VP)

ファッションショーの告知と
ブランドコーディネートプレゼン
→2階南エレベーター前や1階スペース検討



11月



11月1日(日)
ファッションショー本番

ビジュアル・プレゼンテーション (VP)

ファッションショー報告と
ブランドコーディネートプレゼン
→2階南エレベーター前や1階スペース検討



12月

ファッションショーフライヤー

→各専門店やセブンパーク天美にて配布



大学と大型商業施設をつなげ、
相乗効果を生み出す

各専門店のメリットを生み出す集客力
(学生等約五千人)につなげる

今後、学生は社会で役立つ実践の
学びにつなげる

阪南大学本キャンパス

ビジュアル・プレゼンテーション (VP)

ファッションショー報告と
ブランドコーディネートプレゼン
→本キャンパスにて展示

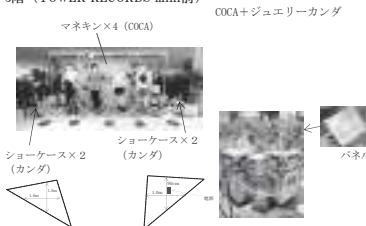
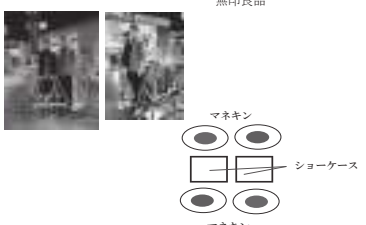
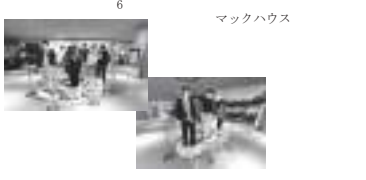


ファッションショーフライヤー

→大学キャンパスで配布



新たにビジュアル・プレゼンテーション(VP)+フライヤー

VP案		10月	11月	
3階 (TOWER RECORDS mini前) COCA+ジュエリーカンダ 	マネキン (メンズ) 2体 マネキン (レディース) 2体 ショーケース 4 パネル	11/1のファッションショー告知がメイン 	11/1 FS本番  ※ブランド紹介、学生がコーデメイン	■展開スケジュール 10月1日(木)～11月19日(木) ■設営日 第1回目:9月30日(水)夕方、 第2回目11月1日(日)夕方(ファッションショー終了後) ■衣装内容切替日 11月1日(日)夕方(ファッションショー終了後) ■撤去日 11月19日(木)夕方
		2階 (トイザらス前) 無印良品 	マネキン (メンズ) 2体 マネキン (レディース) 2体 ショーケース 2 無印良品週間 	11/1 FS本番  ※ブランド紹介、学生がコーデメイン
		2階 (ブルーエスカレーター前) マックハウス 	VP 	VP  ※ブランド紹介、学生がコーデメイン

VPステージ、ショーケースデザイン





活動成果

学内的にも毎回留学生がモデルとして参加しており、昨年は大学院生（中国出身）、学部学生（ミャンマー出身）がランウェイを颯爽と歩き、卒業生モデルも登場するなど、ファッションショーの国際化と多様化が進んでおり、ファッションの阪南大学としてのイメージ向上に貢献。



セブンパーク天美との5年間にわたる連携を通じて、地域を巻き込んだ本学大学祭（アマフェス）のサテライト会場としても活用。



学生証の提示により43店舗で割引を受けられる「阪南大学生割引制度」

出所：セブンパーク天美



大学と大型商業施設の結びつきが、地域と連携する場にもなり、学生の実践的な学びの機会を創出するとともに、地域活性化にも寄与している。

アマフェス2025 運営計画書

開催日：2025年11月22日（土）～11月23日（日）
開催時間：10時00分～16時00分

主催：セブンパーク天美

後援：阪南大学、セブンパーク天美、NPO 法人やんちゃファミリー会、
近畿連合会館、大和郡山市、奈良県警察、奈良県消防組合、
株式会社上社、アリアヒーリングブレイズ

アマフェスとは？

阪南大学学祭緑松祭と同時開催している、学校を飛び出し地域の方たちと一緒に盛り上げるイベントになっています。外では阪南大学生によるこの世で一番楽しい模擬店や、ワークショップの方々や金魚で有名な大和郡山市の方たちが金魚掬いも実施してくれます！そして駐車場には自衛隊車両！消防車！救急車！と一緒に写真が撮れたり、バンダイナムコさんによる楽しいアクティビティもあります！ステージ前のスペースでは、阪南大生考案の阪南大学とかかわりのある会社や大阪府内の会社などをお呼びしたノンアルコール試飲会を開催。

セブンパーク天美との連携

大学周辺地域イベント「アマフェス」が、11月2日、3日の2日間にわたりセブンパーク天美で開催されました。

（写真：セブンパーク天美）



セブンパーク天美との連携

- 阪南大学生限定の割引や特典
- セブンパーク天美の専門店の最新のアルバイト情報



出所：セブンパーク天美



地域からの評価

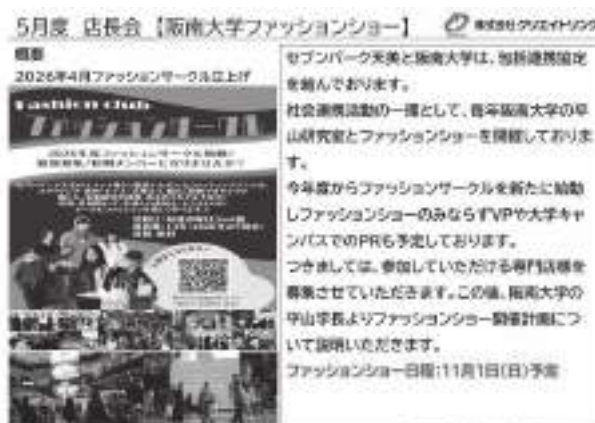
ファッションショーについては、2022年度より昨年度まで計4回にわたり開催いただいております。

施設のにぎわい創出や本施設専門店のイメージ向上に大きく貢献しており、特に、学生が主体的にイベントを運営するスタイルは非常に斬新で、若い感性を活かし地域に開かれた取組みとして、来場者や地域の皆さまからも高い評価をいただいております。

また、地域の学生が商業施設を舞台に活動し、テナント事業者や来場者と接点を持つことは、地域における学びと交流の機会を創出するものであり、本施設が地域社会とともに歩む場であることを示す重要な取組みであると考えております。

当社といたしましても、本イベントを産学連携による地域活性化の代表的な成果の一つとして認識しております。

(株)クリエイトリック（セブンパーク天美を運営）



出所：(株)クリエイトリック

活動メンバー

流通学部4年 福田はるな（アドバイザー）、秋山那優（アドバイザー）、橋本優星

経営学部3年 一木ほのか（代表）、石田桜空（副代表）、庵地瞳翼（主務）、春藤美葉

国際学部2年 森本華梨、古久保麗、吉井莉緒（マネージャー）、川本歌楽

経営学部2年 木村瑠佑、金城晴

経済学部2年 寺本光騎

国際学部1年 白神陽向、村上隼雄真、三沢祥平、田丸雄大

経済学部1年 小田彪河

担当教員 平山弘 経営学部教授（学長）



Challenge is Yours

挑戦を、たのしもう。



地域連携 学生フォーラム ♥in Osaka 2026

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

大阪市北区梅田 1-2-2-400 大阪駅前第2ビル 4階

TEL : 06-6344-9560

MAIL : chiiki-renkei★conso-osaka.jp (事務局 地域連携担当)

★を@に変えてください。

URL : <https://www.consortium-osaka.gr.jp/>